

文部科学省委託事業

令和4年度 地域との協働による
高等学校教育改革推進事業
地域魅力化型（第3年次）

まつナビ・プロジェクト

研究開発実施報告書



令和5年3月

長崎県立松浦高等学校

(巻頭言)

地域との協働による高等学校教育改革」の先にあるもの

長崎県立松浦高等学校 校長 舟越 裕

令和2年度から3か年かけて取り組んできた研究指定事業が、関係者の皆さまからの温かなご支援により令和5年3月をもって終了しました。平成25年度から始まった松浦市から本校への就学支援や、平成29年度から始めた「まつナビ」の取組を基盤として、以下の2つの研究開発単位を設定して、研究に取り組んできました。

- | |
|---|
| <p>I 地域を愛し大切にす姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した、高校3年間を通して地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発</p> <ul style="list-style-type: none">・「まつナビ・プロジェクト」の中心となる学校設定科目の研究開発・地域素材の活用を含む、「まつナビ・プロジェクト」とリンクする授業実践に関する研究開発・小中学校及び大学等との連続性のある学びに関する研究開発 <p>II コンソーシアムをはじめとする、地域課題解決型学習を組織的に支援する体制についての研究開発</p> |
|---|

3年間の成果と課題については本論に詳しく記載していますが、研究開発単位Iにおける「学校設定科目」のカリキュラム開発については、3年間のカリキュラムを完成させることができました。また研究開発単位IIについては、これまでの地域との連携もあったことから、コンソーシアムに支えられながら、随所に生徒の学びの深まりを見取ることができました。その結果、最終目標である生徒たちに「地域を愛し大切にす姿勢と課題解決能力」を身に付けさせることについては、一定の成果を得ました。

一方で課題として残ったのが、研究開発単位Iについては、「まつナビ・プロジェクト」とリンクする授業実践に関する研究は不十分な状況です。また、研究開発単位IIについては、地域の諸事業所等を巻き込んだ支援体制の整備を何とか実現させることができましたが、具体的な動きは次年度以降となります。

こうした成果と課題は、「新しい普通科」として今年度の4月に設置した「地域科学科」での実践や文科省の「新時代における高等学校改革推進事業」の研究指定事業に引き継ぐこととなります。

クリエイティブ・デザイナーの田中淳一さんは、その著書『地域の課題を解決するクリエイティブ・ディレクション』の中で、以下のように述べています。

<p>地域で暮らす人の未来を明るくしていく術は、確実にたくさんある。地域が培ってきた自然、伝統、歴史、文化、ものづくり、人の営み。そのどれもが大きな可能性を秘めている。 足りないのは伝え方。(p264)</p>

松浦高校で学んでいる生徒は、まさに「可能性」あふれる「地域」で暮らし、学んでいます。生徒の学びという視点からとらえ直してみると、生徒だけでなく大人の多くが、「可能性」に気づいていないと言えるのかもしれませんが。また、地域の未来を背負ってほしいと願う子どもたちに対して、地域の魅力についての大人による「伝え方」が不十分なのかもしれません。

本事業の成果と課題を踏まえ、教職員がしっかりと「生徒に伝える＝生徒の学びを支援」するマインドセット整えたうえで、持続可能な体制を整備し、本校で学ぶ生徒に「地域を愛し大切にす姿勢と課題解決能力」を身に付けさせていきたいと考えています。

令和4年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型) 長崎県立松浦高等学校 研究開発実施報告書(第3年次) 目次

巻頭言	1
-----	---

第1章 研究開発計画及び研究開発の概要

1. 本校の概要	4
1-1 所在地	4
1-2 設置課程及び在籍生徒数	4
1-3 学校経営方針	4
1-4 令和4年度グランドデザイン	7
2. 研究構想～研究の目標と仮説～	8
3. 令和4年度研究開発の実施計画	10
4. 令和4年度研究開発の概要	12

第2章 研究開発の内容①(研究開発単位 I)

1. はじめに	14
1-1 研究開発単位の設定	14
1-2 活動目標	14
1-3 活動の概要	14
2. プレまつナビ(第1学年)	15
2-1 研究開発のねらい	15
2-2 令和4年度の実践活動	15
2-3 実践報告	15
2-4 成果と課題	35
3. まつナビ(第2学年)	36
3-1 研究開発のねらい	36
3-2 令和4年度の実践活動	36
3-3 実践報告	36
3-4 成果と課題	59
4. ポストまつナビ(第3学年)	60
4-1 研究開発のねらい	60
4-2 令和4年度の実践活動	60
4-3 実践報告	60
4-4 成果と課題	71

第3章 研究開発の内容②(研究開発単位Ⅱ)

1. はじめに	72
1-1 研究開発単位の設定	72
1-2 活動目標	72
1-3 活動の概要	72
2. コンソーシアム	74
2-1 構成	74
2-2 活動実績	74
3. 運営指導委員会	75
3-1 構成	75
3-2 活動実績	75
4. カリキュラム開発等専門家	76
5. 地域協働学習実施支援員	77

第4章 まつナビ・プロジェクトの検証、次年度に向けて

1. 今年度の目標設定についての検証	78
2. 次年度に向けて(課題改善の方向性)	80

参考資料

1. 生徒アンケート
2. 成果概要図

第1章 研究開発計画及び研究開発の概要

1. 本校の概要

1-1 所在地

〒859-4501 長崎県松浦市志佐町浦免738-1

1-2 設定課程および在籍生徒数（令和5年3月1日現在）

	1年	2年	3年	計
普通科	—	48	58	106
地域科学科	29	—	—	29
商業科	24	26	33	83
合計	53	74	91	218

1-3 学校経営方針

1 校訓

「自己開拓」に全力を注ごう 正しい人間関係をきずいていこう よき市民性を身につけよう

2 スクールミッション（教育方針）

<どのような生徒を育成するのか：社会的役割>

校訓「自己開拓」の精神のもと、基礎学力を高め、主体的に考え粘り強く行動できる人材を育成します。また、持続可能な地域や社会の担い手として、豊かな人間性や協働性を備えた人材を育成します。

<どのような教育を目指すのか：教育理念>

不断の授業改善に基づき、学力をはじめとする生徒一人ひとりの多様な資質・能力の育成を目指します。また、生徒一人ひとりの進路実現を図るため、地域・大学等との協働による探究的な学びや、部活動をはじめとする様々な活動を通して、キャリア形成力や人間力を高める教育を目指します。

<学校の特色、強み、魅力（独自の教育）等：今後の方向性>

全国初の新しい普通科を設置した松浦市唯一の高等学校として、地域社会のニーズや生徒一人ひとりの進路希望に応えられる多様な教育活動の展開を図ります。また、文部科学省研究指定の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」および「新時代に対応した高等学校改革推進事業」の成果を生かし、地域・大学等との協働や県内外の高校との連携による探究的な学びの一層の充実を図ります。

3 スクールポリシー

【育成を目指す資質・能力に関する方針】（グラデュエーションポリシー）

- 将来の目標を持ち、その実現に向けて主体的に努力を続ける人間を育成する（キャリア形成力）
- 社会の一員としての責任感を持ち、相手を思いやることができるなど、品性を備えた人間を育成する（責任言動力）
- 地域や社会の課題解決や発展に貢献しようという意欲を持つ人間を育成する（ふるさと貢献力）

【教育課程の編成及び実施に関する方針】（カリキュラムポリシー・学びの方針）

- 将来の目標を実現させるため、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善及び ICT の積極的な利活用を推進する
- キャリア形成力の育成のため、「ルーブリック」を活用して学習活動を振り返り（自己評価）、「ポートフォリオ」への記録により学びの自己調整を図る取組を充実する。
- これからの社会を生き抜くために必要な課題解決能力や協働性、ふるさとを大切にする姿勢などを育成するため、「まっナビ・プロジェクト」や授業での探究学習を充実する

【入学者受け入れに関する方針】（アドミッションポリシー・求める生徒像）

- 高い志や将来の目標を持ち、その実現に向けて取り組もうという意欲が高い生徒
- 高校生活（学習、部活動、学校行事等）に積極的に取り組み、他者と協力して行動しようという意欲が高い生徒
- 地域や社会の課題解決に貢献したいという意欲が高い生徒

4 重点目標

（1）学びあう学校づくり（授業の充実・進路希望の実現）

- ①平素からの授業改善により、生徒が主体的に学びに向かうような姿勢を育成する。
- ②授業の充実や一人一台端末の活用等を通じて、知識・理解など基礎基本の徹底を図るとともに、思考力・判断力・表現力等を育成する。
- ③ルーブリックを積極的に活用した観点別評価の実施やポートフォリオの活用等により、生徒の資質・能力を多面的に評価するとともに、生徒の自己肯定感を高める。
- ④入試情報・就職情報の収集・分析・発信に取り組み、生徒個々のキャリアプランニングによる進路希望の実現を図る。

（2）支えあう学校づくり（生徒指導の充実と教育相談の推進）

- ①生徒の人権に配慮し、支援や配慮が必要な生徒には柔軟に対応し、全教職員で情報共有を図るとともに、関係機関と速やかに連携をとりながら、支援・指導にあたる。
- ②自他の命、健康・安全を守ることを最優先とし、相手への思いやりのある言動を心がけさせることなどによる、責任感をもって行動できるなどの「品性」を育成する。

（3）伸ばしあう学校づくり（生徒が主役の活動及び「キラリ」と光る部活動の推進）

- ①学校行事、学級活動、生徒会活動、ボランティア活動などを通して、生徒の自主性、積極性、協働性を養う。
- ②各部活動で設定した目標の実現を目指すとともに、生徒の「人間力」を伸ばす活動を推進する。

（4）「まっナビ・プロジェクト」（生徒の「資質・能力」の育成）の充実

- ①文部科学省研究指定事業を軸として、地域・大学等と連携して「まつナビ・プロジェクト」の充実を図り、未来の地域の担い手となる人間を育成する。
- ②生徒の「自分事」としての課題研究活動と各教育活動の連携を図り、課題解決能力をはじめとする多様な資質・能力を育成し、生徒のキャリア形成を図る。
- ③普通科改革の先駆的な取り組みを県内外に発信し、「地域に根ざした高等学校」のネットワークの構築を進めるための体制・運営の研究を進める。

(5) 中学校・地域社会・保護者との連携

- ①学校ホームページ、学校だより、保護者へのメール配信などを通じて、学校から最新情報を発信し、本校への理解を促進する。
- ②学校説明会やオープンスクールを含めた広報体制の改善により生徒募集活動の充実を図り、志願者の増加を図る。

(6) 教職員の「ワーク・ライフ・バランス」の推進

- ① 教員間の協働性を高め、持続的な教育活動が展開できる職場環境づくりを推進する。

- グランドデザインを起点とした、カリキュラム・マネジメントの推進
 - ・「育成を目指す人物像」及び教育活動目標「支えあい、伸ばしあう学びの推進」、「一人一人の進路希望の実現」を踏まえた、各教育活動の「充実」と「見える化」の推進
- 進路指導とまつナビ・プロジェクトとの関連を強める等、生徒のキャリア形成を組織的に支援
- 「まつナビ・プロジェクト」コンソーシアムとの連携などによる、発信力の強化

不断の授業改善を通して教科学習の充実を図るとともに、松浦市唯一の県立高校として、地域や大学等との協働による学びの充実を通して、地域や社会のリーダーとして活躍できる能力を身に付けた人間の育成を目指します。

地域や社会の課題解決に貢献できる人間の育成を目指します。

1-4 令和4年度グランドデザイン

令和4年度の松浦高校のグランドデザインは以下のとおりである。将来の目標を持ち、その実現に向けて主体的に努力を続ける人間になるための「キャリア形成力」、社会の一員としての責任感を持ち、相手を思いやることのできるなど、品性を備えた人間になるための「責任行動力」、地域や社会の課題解決や発展に貢献しようとする意欲を持つ人間になるための「ふるさと貢献力」といった力を身に付けさせる。この実現のために、生徒が「主役」の活動や「責任ある言動」を伸ばす活動、キャリアプランに応じた学び、まつナビ・プロジェクトそして、松高キャリアプランニングといった学びの充実を図る。

令和4年度 松浦高校グランドデザイン

“シン化する”学舎 ～学びを“深”める 力を“伸”ばす “進”路実現を図る～

このような力を身に付けた生徒を育てます

- キャリア形成力**
将来の目標を持ち、その実現に向けて主体的に努力を続ける人間
- 責任言動力**
社会の一員としての責任感を持ち、相手を思いやることのできるなど、品性を備えた人間
- ふるさと貢献力**
地域や社会の課題解決や発展に貢献しようという意欲を持つ人間

このような学びの充実を図ります

生徒が「主役」の活動 <ul style="list-style-type: none">○生徒会が中心となった行事の企画・運営○ボランティア活動などの生徒の自発的な活動の充実	松高キャリアプランニング <ul style="list-style-type: none">○「自分の将来」について考え、決断し、実践する○「ルーブリック」・「ポートフォリオ」等を活用した活動の振り返りとキャリアプランの作成○地元企業や大学と連携した探究活動	キャリアプランに応じた学び（不断の授業改善） <ul style="list-style-type: none">○一人一人を大切にした授業○ICTの有効活用○授業と「まつナビ」との関連を深め、「課題分析・解決能力」等を伸ばす授業
「責任ある言動」を伸ばす活動 <ul style="list-style-type: none">○生徒が「支え合い学び合う」学びの推進○各部活動で設定した「目標」に基づく活動		まつナビ・プロジェクト <ul style="list-style-type: none">○地域の未来を考察、発表、実践する探究学習○松浦市役所・大学等の学校外の組織等との協働

文科省研究指定

松浦市から様々な学びの支援を受けています

補習費・模擬試験費・検定費・航路通学費・部活動強化費・まつナビ支援等

生徒一人一人の進路実現を図ります

2. 研究構想～研究の目標と仮説～

平成25年度、松浦市内唯一の高校である松浦高校への入学者の減少などもあって、松浦市による、松浦高校の生徒（松高生）を対象とした就学支援制度が創設された。

また、平成29年度から松浦市と松浦高校が協働して、学校の魅力を高めことなどを目指した、地域課題の解決策について調査・考察・発表する教育活動が始められた。

これが「まつナビ」である。

この課題研究活動は、2年生全員を複数の研究班に分け、松浦市役所職員が班毎のファシリテーターとなり、学年担当教職員とチームを組んで生徒の課題研究を支援する体制で始められた。

令和2年度より本委託事業に指定を受けたことを契機に、学年担当教職員がファシリテーター、松浦市役所職員がアドバイザーとなり生徒の活動を支えている。

「まつナビ」を進化・深化させた新たな地域課題解決型学習が、「まつナビ・プロジェクト（MNP）」であり、本プロジェクトの目的及び仮説は、以下のとおりである。

【目標】

- ・地域を愛し大切にする姿勢を育成すること
- ・課題解決能力を高めること

【仮説】

「まつナビ」で培った課題研究の進め方と生徒の支援の在り方を、より充実させることができれば、この目標の達成を図ることができるであろう。

なお、充実を図る方向性として考えられるのは、以下の2項目である。

- ・高校2年生だけであった取組を、1～3年生の3年間の継続的・計画的な取組とする
- ・生徒の課題研究を組織的に支援する体制を構築する

この仮説に基づき、研究開発の目標を達成するために、次のⅠ、Ⅱの研究開発単位を設けて、研究開発を行うこととした。

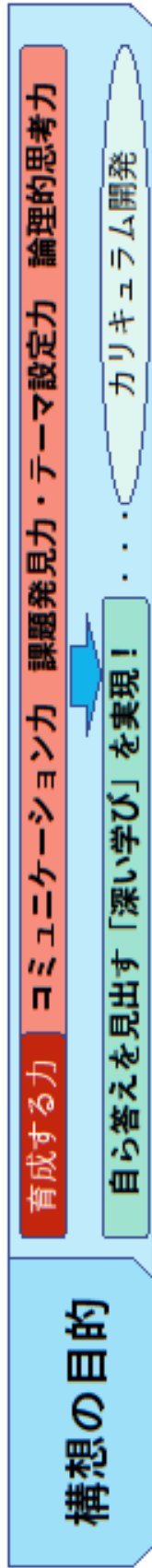
- Ⅰ 地域を愛し大切にする姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した、高校3年間を通して地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発
 - ・「まつナビ・プロジェクト」の中心となる学校設定科目の研究開発（令和3年度新設）
 - ・地域素材を活用した、「まつナビ・プロジェクト」とリンクする授業実践に関する研究開発
 - ・小中学校及び大学等との連続性のある学びに関する研究開発
- Ⅱ コンソーシアムをはじめとする、地域課題解決型学習を組織的に支援する体制についての研究開発

文科省委託 令和4年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

長崎県立松浦高等学校

研究開発構想名：**松浦高校「まっナビ・プロジェクト」**

～「ブレまっナビ」・「まっナビ」・「ポストまっナビ」・「ポストまっナビ」を通しての、3年間の地域課題解決型学習と自らのキャリアデザインの構築～



3. 令和4年度研究開発の実施計画

前節の「2. 研究構想～研究の目的と仮説～」を踏まえ、以下の「研究開発の実施計画」を策定し、研究開発を進めた。

■研究開発の実施計画

指定期間	ふりがな	ながさきけんりつまつうらこうとうがっこう				②所在 都道府県	長崎県
令和2～最大3年間	①学校名	長崎県立松浦高等学校					
③対象 学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	松浦市唯一の県立高校として、令和4年度からは地域科学科80名、商業科40名を募集し、現在は計218名が在籍している。	
普通科	—	48	58	—	106		
地域科学科	29	—	—	—	29		
商業科	24	26	33		83		
⑥研究開発 構想名	松浦高校『まつナビ・プロジェクト』						
⑦研究開発 の概要	<p>長崎県立松浦高校と松浦市が協働で取り組んできた2年生での地域課題解決型学習「まつナビ」に、1年生での「プレまつナビ」、3年生での「ポストまつナビ」を連動させて、生徒の課題解決能力を高めること等を目指した、3年間の連続性のある「まつナビ・プロジェクト」に進化させる。次のⅠ、Ⅱの研究開発単位を設定し、研究開発を行う。</p> <p>Ⅰ 地域を愛し大切に育む姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した、高校3年間を通して地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まつナビ・プロジェクト」の中心となる学校設定科目の研究開発（令和3年度新設） ・地域素材を活用した、「まつナビ・プロジェクト」とリンクする教科指導に関する研究開発 ・小中学校及び大学等との連続性のある学びに関する研究開発 <p>Ⅱ コンソーシアムをはじめとする、地域課題解決型学習を組織的に支援する体制についての研究開発</p>						
⑧研究開発 の内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>従来、2年生だけで取り組んできた「まつナビ」を、3年間を通しての学びとなるように組み直すとともに、地域等と協働を強め、高校生ならではの実践や課題研究に取り組ませることで、地域の活性化を身近に感じさせ、本気で松浦の未来を担いたいと考える人材を育成することを目的とする。</p> <p>また、松浦市唯一の高校であることから、地域に関する知識を身につけさせるとともに、地元の方にインタビューしてその知見を聞き取ったり、地域課題について調査し、その解決策について考察・まとめをし、プレゼンテーションをしたりする実践に取り組ませる。そのことによって、将来的に地域を愛し大切に育む人間性と、生涯にわたり地域課題に向き合い続けようとする姿勢を育むことを目標とする。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p>					

	<p>本県では若者の流出や人口減少が著しく、地域を担う人材不足が深刻化している。そのため県内の多くの地域において、高校と地元自治体等が協働して、地域活性化に資する人材の育成に取り組んでおり、これらの取組をさらに充実させ、持続可能なものにするのが求められている。</p> <p>各教科における地域素材を活かした授業実践を含む、3年間を見通した「まつナビ・プロジェクト」の実践を進め、コンソーシアムを中心とした多角的な支援を受け、地域との協働の機会を増やすことで、校内だけではできない主体的で対話的な深い学びが実現し、地域へ寄与・貢献しようという強い意欲を持ち、高い課題解決能力を身につけた人材が育成される。あわせて、地域課題研究を中心としたカリキュラムと、コンソーシアム構築のノウハウを県内に広く普及させることができる。</p>
<p>⑧-2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>第1学年</p> <p>第2学年で実施する「まつナビ」の実施に向けて、松浦に関する基礎知識やフィールドワークを含む課題研究活動を進める技能を身につけさせる。年間を通じて、地域素材を活用した授業の実践を行い、フィールドワーク等や課題研究発表に関する技能の習得を進め、1年間のまとめとして、2年次における「まつナビ」のテーマを設定する。</p> <p>第2学年</p> <p>地域課題解決を目指した「まつナビ」の実践を行う。フィールドワークや地域との協働活動に基づく調査・研究・実践を進め、中間発表を行う。コンソーシアム等による評価を受けて、テーマ再設定や発表内容の修正後、本発表を行う。選ばれた5つの班は松浦市文化会館で松浦市長及び市議会議員の前で提言し、他の班はポスターセッションを実施する。</p> <p>第3学年</p> <p>3年生は「自分と将来」について考えるとともに、ふるさとへの思いを大学進学や就職など実際の進路実現に反映させるために、キャリア開発に向けて作成した本校独自の「ポートフォリオ」に3年間の研究の成果をまとめた論文を作成する。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>カリキュラム等開発専門家である長崎大学准教授等や学年副主任やキャリア形成部といった、校内外のメンバーで構成されるプロジェクトチームの協力を得ながら検討し、地域との協働による探究的な学びをより充実させることを目的とした、PDCA サイクルにもとづく、カリキュラム・マネジメントを推進する。</p> <p>検討内容については、コンソーシアムで報告し、今後の研究活動等の進め方についての協議を行った。また、運営指導委員会による指導助言等を踏まえ、「プロジェクトチーム」が中心となって、修正案を検討し、以後の計画等に反映させることで、生徒の深い学びの実現を目指す。</p> <p>「まつナビ・プロジェクト」の各研究活動においては、カリキュラム開発等専門家、地域協働学習支援員を交えた振り返りを行い、研究活動の改善を図る。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特記事項なし</p>

4. 令和4年度研究開発の概要

(1) 研究開発の内容や地域課題研究の内容（類型の趣旨に応じた取組）

類型（地域魅力化型）の趣旨を踏まえ、地域ならではの新しい価値を創造する人材として不可欠となる、地域を大切に作る姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目的とした、高校3年間をつなぐ地域課題解決型学習を進めた。

なお、令和4年度の研究開発単位毎の活動目標を以下のように設定し、研究開発を行った。

〈研究開発単位Ⅰ〉

地域を愛し大切に作る姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した、高校3年間を通して地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発

〈研究開発単位Ⅱ〉

コンソーシアムをはじめとする、地域課題解決型学習を組織的に支援する体制についての研究開発

(2) 令和4年度の課題研究活動

グランドデザインを踏まえ、地域の方々と協働しながらPDCAサイクルを回す組織マネジメントを進めることによって「教育目標の達成」「学校の魅力化」を目指して、研究開発を行った。

次ページ図は、令和4年度課題研究活動のまとめである。

なお、詳細な研究開発の内容については、第2章および第3章等で示す。

(3) 成果の普及方法・実績

① Web 発信

ホームページ上に「まつナビ・プロジェクト」専用のカテゴリを作成して、生徒の活動状況を地域などに広く伝えるために随時更新を行った。また、SNSでもアップして、校内外への周知を図った。

② 校内発表会（12月14日実施）・課題研究発表会（1月18日実施）

校内発表会は本校体育館で、課題研究発表会は松浦文化会館で実施した。生徒が研究・実践した内容について2年生10班（1プロジェクト）の研究発表を実施した。なお、参観者は、審査員4名（カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員、管理機関代表者、松浦高校長）と発表者の2年生、1年生が参観した。

なお、当発表会で選出された5つのプロジェクトは、松浦市議会議員およびコンソーシアム会議構成員や運営指導委員、長崎県内の公立高校教職員や松浦市内小中学校の教職員と研究内容を共有すること、また、松浦市の施策に生徒の提言を反映させることを目的として、1月18日（水）に松浦文化会館で課題研究発表を行い、その他の班はポスターセッションを実施した。

■課題研究活動計画一覽

◆まつナビ・プロジェクト 月別活動予定

●学年での活動 ☆他学年の活動参照等 △その他

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週
めあて	MNPを知る																							
行事	ミニ課題研究を行う																							
学校設定 科目	ハスツアー 発表会																							
研修会 講演会	ハスツアー 発表会																							
教科書	【第1章】 課題研究の概要 何か																							

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週
めあて	課題研究構想																							
行事	フィールドワークを中心とした研究活動と実践活動を行う																							
学校設定 科目	課題研究(高総体) 構想発表会(高次連携)																							
まつナビ	発表会 発表会																							
研修会 講演会	発表会 発表会																							
教科書	【第3章】 研究手法を学び、研究 計画を作成しよう																							

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月	
	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週
めあて	課題研究構想																			
行事	フィールドワークを中心とした研究活動と実践活動を行う																			
ポスト まつナビ	発表会 発表会																			
研修会 講演会	発表会 発表会																			
教科書	【第4章】 調査・実験の実行および 結果のまとめ																			

第2章 研究開発の内容①(研究開発単位 I)

1. はじめに

1-1 研究開発単位の設定

まつナビ・プロジェクト（MNP）の研究開発の目的を達成するために、以下の開発単位を設定した。

- I 地域を愛し大切にする姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した、高校3年間を通して地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発
- ・「まつナビ・プロジェクト」の中心となる学校設定科目の研究開発（令和3年度新設）
 - ・地域素材を活用した、「まつナビ・プロジェクト」とリンクする教科指導に関する研究開発
 - ・小中学校及び大学等との連続性のある学びに関する研究開発

1-2 活動目標

令和4年度の活動目標は以下の通りである。

高校生の「地域を愛し大切にする姿勢と課題解決能力」を育成するため、高校3年間をつないだ地域課題解決型学習を進める

1-3 活動の概要

(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

学校設定科目である「まつナビ（2年生）」「ブレまつナビ（1年生）」（毎週水曜日7校時目）を中心に、地域との協働による探究的な学びを進めた。発表会（準備）や校外活動を行う場合には、水曜日6校時目の総合的な探究の時間も含めながら、連続する活動時間を設定した。各教科・科目においては、「まつナビ・プロジェクト」との相互補完関係を構築することを目指し、地域素材の活用を含む、設定した資質能力の育成を図るための授業実践に取り組んだ。

(2) 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組

各教科・科目において、地域との協働による探究的な学びである「まつナビ・プロジェクト」との相互補完関係を構築するため、育成を図る資質・能力として、「課題発見力（テーマ設定力）」、「論理的思考力」、「コミュニケーション力（傾聴、対話、発信）」を設定した。これらの資質・能力の育成を図る授業実践を各教科・科目の授業に組み込むことで、各科目における学習を相互に関連させ、教科横断的な学習とすることを目指した。その充実を図るために、全職員で、10月以降、ICTを利活用した授業改善を進めた。この研究成果について、全職員が公開授業を実践し、意見交換・検証・改善を進めた。

2. プレまつナビ（第1学年）

2-1 研究開発のねらい

第2学年で実施する「まつナビ」の実施に向けて、松浦に関する基礎知識やフィールドワークを含む課題研究活動を進める技能を身につける。年間を通じて、地域素材を活用するなどの授業実践を行い、フィールドワーク等や課題研究発表に関する技能の習得を進め、1年間のまとめとして、次年度における「まつナビ」の課題研究テーマを設定する。

2-2 令和4年度の実践活動

業務項目		実施日程											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	A 教科横断型と地域連携の授業づくり							1	1	1			
	B 課題研究活動に必要な知識・技能習得	1	2	3	1		1	1					
	C 研究テーマ設定								3	3	2	2	2

2-3 実践報告

(1) 「A 教科横断型と地域連携の授業づくり」について

下記の教科横断型と地域連携の授業づくりを行った。9月は長崎地方気象台と地理総合、10月に実施した地域伝統行事見学は歴史総合と地域連携の授業づくりを行った。

【授業実践例】

教科・科目 実施日	授業内容	まつナビ・プロジェクトと リンクする授業目標
9月26日 地理総合	台風を教材に防災について知るための長崎地方気象台とのコラボ授業	専門的な台風等防災への知識・教養を深める
10月26日 歴史総合	淀姫神社における伝統的な流鏝馬見学	歴史総合の一環として、地域を愛し大切にす姿勢の育成
11月18日 地理&数学	エラトステネスになって、地球の大きさを測定しよう	論理的な思考で課題に取り組むことができるようになる
12月6日 歴史総合	国学院大学池田教授による、鷹島における元寇船の引き上げの講話	歴史総合の一環として、地域を愛し大切にす姿勢の育成
12月20日 国語&英語	国語と英語で学習する「使役動詞」を比較してみよう	課題発見能力を高める
3月3日 商業&まつナビ	今後の研究構想発表会や2年次の研究に向けて、効果的なパワーポイントの作成法を身に付けよう。	プレゼンテーション能力の育成



◆流鏝馬見学前に実施した
歴史総合の授業

◆志佐くんち
流鏝馬の様子



(2) 「B 地域課題研究のための知識の習得」について

まつナビ・プロジェクトの概要確認や、地域の現状の確認を行った。

■ガイダンス資料

プレまつナビ ガイダンス

令和4年4月27日

第1学年

MNPチーム

1. まつナビ・プロジェクトとは

まつナビ・プロジェクトは、平成29年度から本校と松浦市が協働で取り組んできた2年生での地域課題解決型学習「まつナビ」に、1年生での「プレまつナビ」、3年生での「ポストまつナビ」を連動させて、皆さんの課題解決能力を高めることを目指した取り組みです。令和2年度より文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の指定校となりました。

2. プレまつナビでは何をするのか

簡単に言うと、2年生で行う「まつナビ」の基礎的な知識や技術を身に付けます。例えば、2年生のフィールドワークのための基礎力をつけるために、バスツアーを行います。

また、課題研究発表（まつナビ）の基礎力をつけるために、バスツアーを含めた学習内容の報告会を行います。

最終的には、2年生で課題研究活動を進めるための「テーマ設定」を自分で考えます。そして、同じような研究を考えている人とグループをつくり活動を開始します。

この3年間を通した「まつナビ・プロジェクト」の活動は、みなさんの進路実現（キャリア形成）が最終的な目標です。

3. 心がまえ

まつナビ・プロジェクト（MNP）は、国語や数学といった教科と同じで、今年度より「学校設定科目」となりました。

「ふるさとをこうしたい」といった前向きな態度で、積極的に活動を行いましょう。

4. 中学校での活動から

プレまつナビを考えるにあたり、中学校や小学校での活動が生きてきます。まずは、中学校の活動等を思い出してください。それをクラスの人たちに伝える活動から、この活動を始めます。

■ワークショップ資料

5/11 (水) プレまっナビ ワークシートI

□ 組 □ 班

バスツアーに向けて～中学校の地域学習を振り返ろう！～

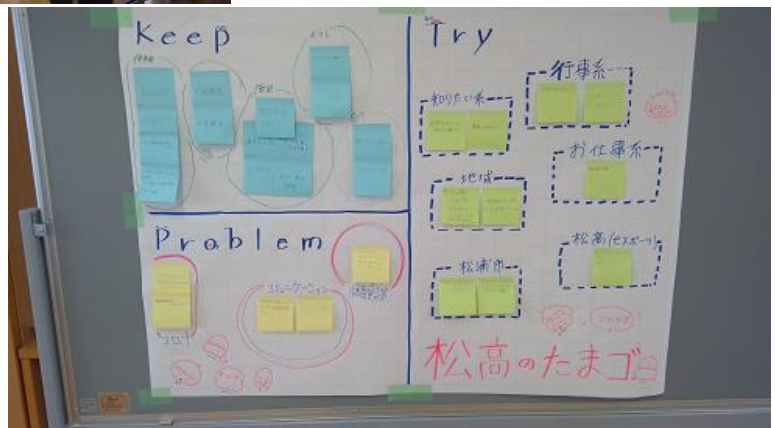
氏名 () 出身中学 () 中

その他メンバー ()

	うまくいったことについて、 継続したいこと(keep)	うまくいかなかったことで、 改善したいこと(problem)	まっナビ・プロジェクトで try したいこと
小学生の頃の 地域学習			/
中学生の頃の 地域学習			
地域学習を通して 学んだこと			
今、興味がある課題 や研究内容			
高校でチャレンジ してみたいこと	小中学校の頃の活動だけでなく、あなたが実践してみたいこと、研究してみたいことなどを記入してください。 (例) イベント (e スポーツ大会・バザー)、松浦タータンを使った地域貢献活動、松浦市の歴史、民話、絵本作り、人口問題、環境問題、松浦市の建築物 等 →世間を「あっ」と言わせるチャレンジを！		



◆振り返り資料を用いて
ワークショップを実施



(3) バスツアー

生徒自身に探究のPDCAサイクルを一巡させ、今後の課題探究活動を進めるうえで必要な技能を生徒に身につけさせるため実施した。

(ア) 事前調査

ガイダンスや中学校の振り返りを行う中で、興味関心がある分野をあらかじめ把握し、班編成を行うため、事前調査を以下の用紙を用いて行った。

◆第61回生 バスツアー計画

Keep	Try	チーム
職場体験	eスポーツ大会	A
まちたんけん	地域との交流	
地域清掃	行事参加	
ボランティア	ボランティア活動(志佐川清掃)	
あいさつ運動	温泉をつくる	
蛇踊り 御神輿	松浦高校を人気にしたい	
かるた大会	イベント・ゆるキャラ	
会社見学	松浦の良い場所	
働く人インタビュー	廃校や廃屋、シャッター商店を減らす	
お魚教室	環境問題	
田助ハイヤ節	人口問題への取組	B
志佐音頭	松浦市の建築物	
陶器	職場体験	C
まちピカ作戦	ヘアリングの普及	
つきそば	松浦市の食べ物	
世知原炭鉱	商品取り扱い	
工場見学	特産物の普及・駅弁	
郷土料理	水産物(アジ・フグ)専門飲食店	D
危険箇所を地図におとす	松浦の歴史(元寇・水軍など)	
米作り	民話	
アジフライ	松浦市を舞台にしたマンガ作り	
本(読書)	国際交流	

チーム	Try	仮ルート名
A	地域貢献(ボランティア等) 地域活性(まちおこし)	いきる一と 地域を元気にする
B	人口問題 環境問題	あずる一と 地球の明日を考える
C	特産(水産・加工品) しごと(普及を含む)	つくる一と 生産物について知る
D	歴史・国際 文化(マンガ)	かたると 松浦の伝統を後世に伝える

あなたのTry(具体的に)

	希望チーム	希望する理由
第1希望		
第2希望		
第3希望		

()組 ()番 氏名()

調査をした結果をもとに班編成を行った。結果は以下のとおりである。

- A班(地域貢献・地域活性) 18名
- B班(人口・環境問題) 8名
- C班(産業) 13名
- D班(歴史・国際・文化) 16名

(イ) バスツアー準備

昨年度の訪問先一覧やインターネットの情報をもとに、ファシリテーター（教職員）と生徒が協議を進め、バスツアーの訪問先を選定し、ルートの作成まで生徒自身が行った。



◆バスツアー計画

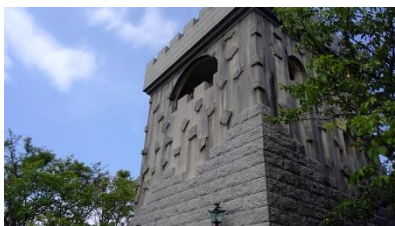
■ルート内容（見学先）

班	コース	ルート	内容
A	地域貢献・ 地域活性化 コース	大山公園	大山公園見学・質疑応答（インタビュー調査）
		いろは島・花と冒険の島 公園	いろは島見学・質疑応答（インタビュー調査）
		伊萬里百貨店	百貨店社長へインタビュー調査
B	人口・ 環境問題 コース	県立大	地域課題の現状とその対策に関する講話・ディス カッション
		海きらら	海洋生物を取り巻く環境の学習
		星きらり	太陽が地球に与える影響の学習
C	産業コース	エミネントスラックス	工場見学・質疑応答
		平戸市役所	観光客誘致についての工夫について・質疑応答
		平戸大橋公園	昼食休憩
		双日ツナファーム	工場見学・質疑応答
		エンマキ	工場見学・質疑応答
D	歴史・国際 ・文化 コース	鷹島 住吉神社	神社見学・質疑応答
		文化財センター	文化財の説明
		今福 今福神社	神社見学
		星鹿 姫神社	神社見学
		志佐 淀姫神社	神社見学

(ウ) バスツアー実施

計画に基づきバスツアーを実施した。以下は班ごとの活動のようすである。

○A 班（地域貢献・地域活性化コース）



◆大山公園



◆いろは島 花と冒険の島公園



◆伊万里百貨店

★生徒感想

伊万里百貨店では新しいモノを作るのではなく、脈々と受け継がれる伊万里の魅力あるヒト、伊万里の魅力あるモノ、伊万里の魅力あるコトを全国でも文化や風景、今ある地域資源をベースに規格からデザイン、販売までワンストップで商品化していることがわかった。地元の情報伝えるなどして街を盛り上げていくなどといった今回学んだことを参考にしながら今後のまつナビをみんなと協力して活かしていきたい。

○B 班（人口・環境問題コース）



◆長崎県立大学



◆海きらら



◆星きらり

★生徒感想

長崎県立大学に行き、話を聞くだけでなく意見を共有しあう場を設け皆の意見を聞くことができました。人口問題について向き合い、これからの未来をどう変えていくのかを考えていきたいです。少子高齢化が進行しているのは事実ですが、行動しない限り何も変わらないままなので自分たちの故郷、松浦の長所を生かし地域活性化に取り組んでいきたいと思えます。

〇C班（産業コース）



◆エミネントストラックス



◆双日ツナファーム



◆エンマキ

★生徒感想

私はエミネントストラックスについてあまり知らなかったのですが、今回のバスツアーを通してエミネントストラックスは世代を渡ってみんなで働けるいい会社ということと、高品質なストラックスを作って全国の人に使うことができるすごい会社だということも同時に知ることができました。

〇D班（歴史・国際・文化コース）



◆文化財センター



◆淀姫神社



◆姫神社

★生徒感想

お話を聞かせてもらって、私が印象に残ったことは、名前の由来です。「ぎぎが浜」はみこしを担いだ人たちが砂浜を歩いた時にギギ、ギギ、と砂が鳴っていたことからつけられた名前と聞き、すごく面白いなと思いました。そして昔の人が神社を造った理由が、街をひとつにするためと聞いてなんか微笑ましかったです。

(エ) 学習報告会

これまでの学びの振り返りを行い、個人レポートを作成し、代表者が学習報告会で発表を行った。
また、各班においてもこれまでの取り組みについての報告を行った。

■報告会実施要項

「まっナビ・プロジェクト」プレまっナビ 学習報告会

- 1 目 的 「松浦」について知るために行ったバスツアー等において学んだこと・発見したことを共有し、課題研究へとつなげる。また、次年度の課題研究発表に向けて、発表のしかたを身につける。
- 2 日 時 令和4年9月14日(水) 6・7校時(14:10~15:50)
- 3 場 所 コモンホール
- 4 対 象 松浦高校1年生(55名)・・・発表者(全4班)
- 5 内 容 ひと班あたり、発表を12分(個人発表含む)、質疑応答4分、移動および感想記入4分の計20分で実施する。
- 6 会 次 第
進行 生徒2名
 - (1) 14:10 はじめのことば(生徒代表)
 - (2) 14:15 校長先生挨拶
 - (3) 14:20 ()ルート 発表(20分)
 - (4) 14:40 ()ルート 発表(20分)
 - (5) 15:00 ()ルート 発表(20分)
 - (6) 15:20 ()ルート 発表(20分)
 - (8) 15:40 講評
 - (9) 15:45 おわりのことば(生徒代表)
- 7 そ の 他
 - (1) コロナ感染状況によっては、リモート発表もある。
 - (2) 原稿を見ないで発表する。
- 8 班発表の内容
ルートの全体説明&個人レポート(word作成分)発表(併せて12分)
 - ルートの全体説明
パワーポイントを使用。(場所の名前を提示し、写真を貼る)
口頭での報告。(行った場所・体験した内容・感想 など)
 - 個人レポート(word作成分)発表
個人レポートの項目に従って説明する。

■報告会で発表した個人レポートの抜粋

1年生バスツアー事後レポート

研究テーマ「神社の様式の違い、共通点また、近くにある植物」

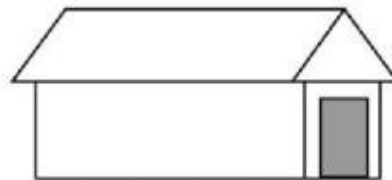
テーマ設定の理由

- ・神社によって設立された年は違うので建物の様式の違いまたは、共通点があると思ったから
- ・神社の近くに当時植えられた植物があるかもしれないから
(事前に調べたこと)
- ・鷹島住吉神社のアコウ→三本のアコウの木が生育、樹高 18m、目通り幹まわり(長崎県指定天然記念物)4.5m、このアコウは九州西岸における分布の北限であり、とても価値あるもので、しっかり根を張った大木から生命力を感じるそうです。

神社の建築様式について→~大きく二つの系統~



平入り (神明系)



妻入り (大社系)

平入り:屋根の面に対して、水平の壁に入口を持つもの

妻入り:屋根の面からみて、横の壁に入口を持つもの

(当日わかったこと)

- ・今福神社、鷹島・住吉神社は平入り、星鹿・神社、志佐・淀姫神社は妻入りだとわかった。
- ・鷹島住吉神社のアコウ→入口付近にアコウの木があり、見逃してしまいそうでした。また、神社の敷地内にもアコウの木がありました。そのアコウの木は生命力を感じました。



1年生バスツアー事後レポート

◎ 研究対象施設 伊萬里百貨店

◎ 研究テーマ **「百貨店の存在が地域活性化につながる理由」**



◎ テーマ設定の理由

百貨店がどのような活動で地域に貢献しているのかを知り、これから私たちが活動する上での参考にしたいと思ったから。

◎ 事前に調べたこと

伊萬里百貨店の概要

① 創立：2015年 ② 社長：村上 武大さん

③ 《事業内容》

・ブランディングや商品開発の支援事業 ・まちなかツーリズム事業 …

《これまでの取り組み》

・第1・2号特産品プロデュース …

(伊萬里和蜂天然蜂蜜/波浦の塩ミルクジェラート)



◎ 当日わかったこと

地域活性化につながる事業（お店の経営・商品開発…）を行う上で大切なこと
そして、百貨店が地域活性化につながっている理由を語る上でのキーワード

♡ 郷土愛 ♡

Q. 地域に貢献できる会社を経営するうえで大切にしていること。

A. 地域活性化は、愛や楽しいことの集合体。活性化 = 郷土愛 である。
だから、たくさんのことに関心を持ち、グローバルに考えることが大切。

Q. 商品開発をするうえで大切にしていることや気を付けていること。

A. お店の付近に、どのような人がいるのかをよく調べる。
自分が売り出したい商品や開発したいものについて自分がどれだけ語れるかが大切。
愛をもってつくる。 …

◎ 今後の展望

今ある松浦の特産品や観光スポットをもっと広めるためには…

まずは私たちがその特産品や観光スポットについて語るができるくらい詳しくなる！
その場所や物を愛する！

(4) 研究テーマ設定

地域課題を解決しうる地域資源の発見や地域課題の確認と解決策を立案するためのフレームワーク学習を行い、個人でテーマを設定したのち、次年度の課題研究テーマの設定及び研究班の編制を進めた。

(ア) フィールドワーク (志佐んぼ)

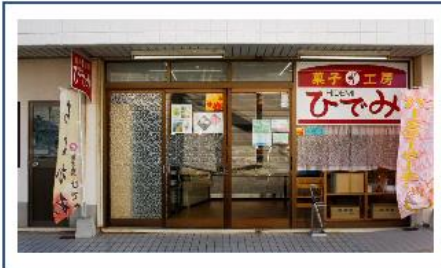
地域資源の発見や地域課題や実状の確認を行うため、学校周辺のフィールドワークを実施し、レポートの作成、レポートの校内掲示による情報共有を行った。

■ レポートの抜粋

志佐んぼ 入力シート

訪問した場所「菓子工房ひでみ」

外観



内観



取材で分かった訪問場所のできること

- 地元のマーコットを使ってお菓子を作っている。
- お店で手作りしたものを売っている。
- 味を工夫していて、他のお店と違う独自の味になっている。

取材で分かった訪問場所が課題と感じていること

- マーコットの作り手がないこと。
- 高齢化して買いに来る人が少なくなった。
- コロナでお客さんが減った。



考えてみよう！

訪問場所の特徴をいかして自分たちができること or 訪問場所のために自分たちができること

- 宣伝⇒お店の評判を上げ、お客さんを増やす。
- 文化祭⇒松浦市民に知れ渡ることができる。
- 松浦特産新商品⇒松浦特産の物を広めさせることができる。

(イ) 地域伝統行事（淀姫神社の神事「流鏝馬」）見学

地域に対する興味関心を深め、体験型地域資源学習として、学校近隣の神社で行われている伝統行事を見学した。



■実施要領

志佐くんち「流鏝馬神事」見学

- 1 日時 令和4年10月26日（水）（雨天決行。余程の荒天のみ中止もあり得る）
- 2 場所 淀姫神社 馬場
- 3 日程 集合：体育館前
14：15 体育館前集合・諸注意
14：20 出発（1組 → 2組 → 3組）
14：30 到着

4 引率

1 学年職員

5 注意事項

1. クラスごとに固まって見学すること。
2. 感染症予防のため、マスク着用を徹底すること。水筒も持参して良い。
3. 貴重な、神聖な神事に参加しているという心構えで臨むこと。
決して、ふざけたり、騒いだりしないこと。（楽しむのは大いに結構）

6 備考

- ・事前学習を行う予定。（歴史総合）

(ウ) 市役所各課からの現状説明会（ブース形式説明会）

現在、松浦市で取り組んでいる地域課題解決の方策等を学ぶために、ブース形式での説明会を実施し、市役所各課からの説明を受けた。

■実施要領

市役所「ブース形式説明会」実施要領

- 1 目的 市役所の方のお話を通して、市の抱える問題に目を向ける。
 専門家の目を通して、自分の視点とは違うところから問題点をとらえる。

- 2 日時 令和4年11月 9日（水）6・7時間目

3 詳細

教室	①14:10～14:40	②14:45～15:15	③15:20～15:50
社会科教室		9 福祉事務所(8)	9 福祉事務所(7)
第1選択教室	1 総務課(4)	1 総務課(4)	2 防災課(9)
1-1	3 政策企画課(11)	10 農林課(9)	6 健康ほけん課(7)
1-2	4 税務課(7)	13 建設課(6)	7 長寿介護課(6)
1-3	5 市民生活課(6)	14 都市計画課(12)	14 都市計画課(13)
第2選択教室	8 子育て・こども課(18)	8 子育て・こども課(9)	12 地域経済活性化課(9)
第3選択教室	11 水産課(8)	17 教育委員会(5)	17 教育委員会(3)

()内は受講する生徒の数

講話 20分（仕事内容、その課から見た松浦市の課題）

質疑・応答 10分

4 その他

- ・事前に質問を考えて、ワークシートに記入しておく。
- ・感想用紙は、翌日朝のSHRで回収する。
- ・次回の「まっナビ」活動で、今回お聞きした「松浦市の抱える課題」について考えていく。(ロジックツリー)

(エ) フレームワーク（ロジックツリー）学習

これまでの学習内容を整理し、地域課題の解決策を立案する手法を学ぶために、ロジックツリーを用いたフレームワークを行った。

■指導案

1116（水）

本時の内容		松浦市の抱える課題について考察する
本時の目的		①「市役所ブース形式説明会」でお話があった松浦市の抱える課題について、共有する。 ②「松浦市の抱える課題」について、どのような原因があるか考察する。 ③「松浦市の抱える課題」の解決方法を模索することで、各自の「課題研究」のテーマの糸口をつかむ。
進め方		
時間	学 習 内 容	指導上の注意点
14:10	展開① 学習内容の確認、準備。 ・指導者から、本時の内容と目的を聞く。 ・プリントを受け取る。 ・ロジックツリーについて説明を受ける。 ・前時のプリントを準備し、3つの課の話から、自分が最も解決に向けて考察したい課題をそれぞれ一つずつ選ぶ。	* 4～5人ずつのグループを作っておく
14:20	展開② グループで前時の内容の確認。 ・前時に、どここの課の話聞いたかと、そこで聞いた中で最も印象に残った課題を紹介し合う。	
14:30	展開③ 課題解決についての考察。 ・各自の出した課題の中で、今日話し合いたい課題を3つに絞る。 ・一つにつき20分程度で「ロジックツリー」を使いながら課題解決の方策を考えていく。	・「HOW型」の方を用いた方がいい旨
14:55		
15:05	展開④ 2つめ、3つめについて同様に考察する。	
15:45	展開⑤「次時に向けて」を確認する。 次時に向けて ・次時は、松浦市の課題解決に向けて活動している方々の話を聞くので、参考にする。 ・今日の活動で面白そうなものを、まつナビのテーマ候補としてもよいので、考えておく。	

(オ) 個人テーマ設定

(a) テーマ設定の導入

導入として、生徒自身の興味関心を重視したテーマの検討を行った。

■指導案

1207 (水)

本時の内容		好き・興味からテーマを考える
本時の目的		①「好きなこと・もの」を通して研究テーマを考える。 ②「松浦市の抱える課題」と「SDGs」を手がかりに、「したいこと」を通して誰を幸せにできるか考える。
進め方		
時間	学 習 内 容	指導上の注意点
14:10	展開① 今日の取り組み内容の確認。 ・指導者から、本時の内容と目的、学習の流れを聞く。	* 4～5人ずつのグループを作っておく * ワークシートを配っておく * 模造紙・ペン・付箋準備
14:15	展開② 好きなこと・ものを挙げる。	* 1分間語れるもの
14:20	展開③ グループで机をつける。 自己紹介を兼ねて、自分の好きなこと・ものについて語る。(1分ずつで交代)	* 進行係と書記を決める。 * 聞く人は、笑顔で、しっかりうなずきながら聞く。
14:30	展開④ 全員の「好きなこと・もの」を通して「松浦でやってみたいこと」を考え、それぞれ考え、付箋に書く。	* 手が動かない生徒には声をかける * 模造紙・付箋配布
14:40	展開⑤ 模造紙に表を書く。 一人ずつ、実現すると生じるメリット、誰が幸せになるかなどを説明しながら模造紙に付箋を貼る。 14:55を目処に休憩時間に入る(班ごと)	* 聞く人は、笑顔で、しっかりうなずきながら聞く。 * 終わらなければ7時間目の最初に続きをする。
15:05	展開⑥「松浦でやってみたいこと」について、実現することでどのようないいことがあるか考える。 それぞれ付箋に書く→説明しながら貼る	* 意見を言い合う * 追加の意見は書記が付箋に書き、模造紙に貼る。
15:25	展開⑦「展開⑥」で挙げた「いいこと」は「SDGs 17の目標」のどの目標達成につながるか、考える。	* 模造紙に付箋を貼る。(複数あればすべて)
15:35	展開⑧自分のワークシートに、自分の好きなことについて班で出た意見の中で一つ選びワークシートに記入する。	
15:45	次時に向けて ・次時は、これまでまつナビで取り組んだことを踏まえて、個人テーマを決定する旨伝える。	

～あなたの「好き」で、松浦を幸せに～

「SDGs 17の目標」から考えよう！

○あなたが1番「好きなこと・もの」は何ですか？
(これならどれだけでも語れるぞ！)

○「SDGs 17の目標」とは？

世の中には、ずっと長いあいだ解決できていない問題がたくさんあります。
それらの問題を世界中の人たちが力を合わせて解決しようと、193の国が集まって話し合い、17の目標を定めました。それらを「エス・ディー・ジーズ (SDGs)」と呼んでいます。「エス・ディー・ジーズ (SDGs)」は、「だれひとり取り残さない」ための取り組みで、2030年12月31日までにやりきろうとしています。日本も、もちろんその目標に取り組むことになっています。

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさも守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナースhipで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	

○「好きなこと×松浦」…あなたは何をしたいですか？

したいこと	
いい点	
SDGs	

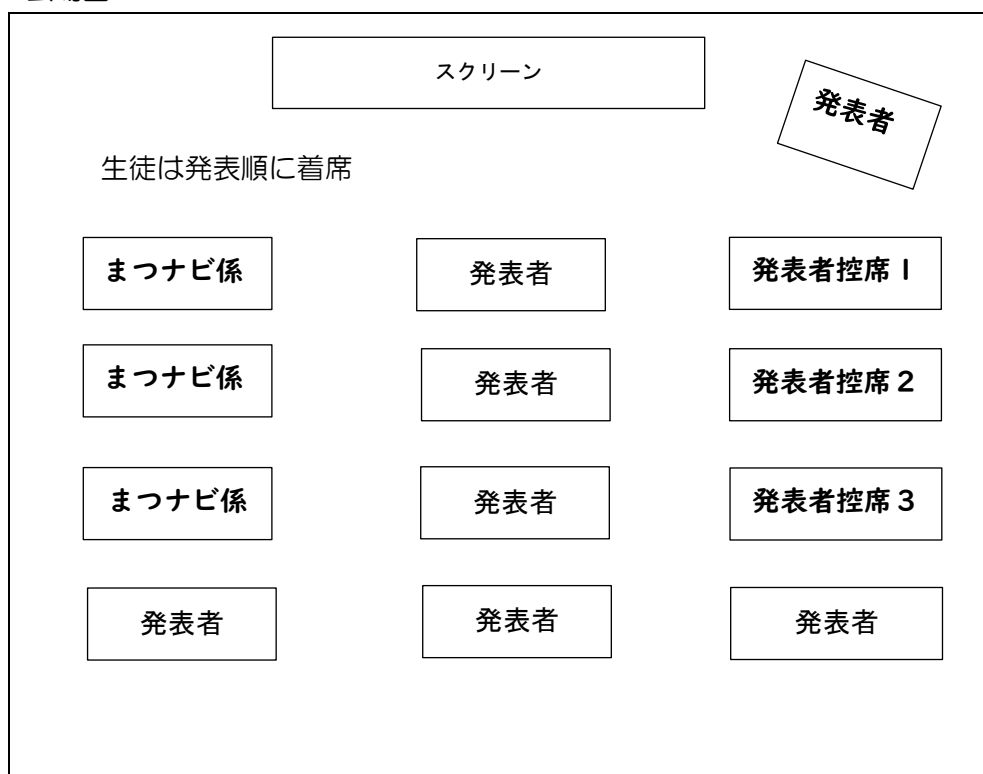
(b) 個人テーマ発表会

これまでの活動を振り返り、個人で考えたテーマを1年生全員で共有するために、個人テーマ発表会を行った。また、発表を生徒自身に評価させ、その発表をもとに、「似たような個人テーマ」を集約し、班の編成を行った。

■発表会実施要項

個人テーマ発表会 実施要項

- 1 日 時 令和5年1月25日(水) 6・7時間目
- 2 場 所 コモンホール
- 3 発表形態 発表資料を投影したプレゼンテーション・1人1分程度
- 4 発表順 指定の順番による
- 5 その他 発表後、内容の優れたものを5つ選び、投票を行う。
投票結果で上位のものを、今後実施する課題研究のテーマとする。
- 6 会場図



- ① 1番から6番までの発表者は、進行の指示があったら、発表者控席に移動する。
- ② 自分の順番が来たら、発表席に移動して発表を行う。
- ③ 6番まで終了したら、指定された席に移動する。
同時に、7番から12番までの発表者は、発表者席に移動する。
以下、6番ごとに同じ動きを繰り返す。



松浦の名物ガチャポン！

内容…松浦の人通りの多い施設でガチャポンを実施する。

ガチャポンの内容は松浦名物（アジフライ・まつドリー焼き・御厨ブドウ など）

設定理由

- ・松浦の人口を増やすためにまず、松浦を知ってもらう。
- ・名物を景品にして形に残したら簡単に紹介できるし、覚えやすい！
- ・松浦に来た際のお土産にしてほしい！



活動の最終目標

- ・松浦の人通りの多い施設（松浦駅など）にガチャポンを設置して観光に来た方に回してもらおう。
- ・ガチャポンを通して松浦の名物を少しでも覚えてもらう。
- ・松浦に来た際のお土産にしよう。



癒しのお菓子開発

実践内容

地域のお菓子屋さんと「一口食べると幸せになれる」ような癒されるお菓子を開発する。開発したら、SNSで宣伝したり、駅などにポスターを掲示させてもらいたいする。

設定理由

今松浦にいる、仕事や勉強で疲れている人たちが、癒されて、気分をリフレッシュできるようなお菓子を作りたいと思ったから。

活動の最終目標

お菓子をつかって販売。

松浦に住んでいる人に美味しいものを食べて、心も健康になってもらう。

(c) 課題研究構想発表会

班活動を通して、取り組むテーマを決定し、以下の要項で示した目的等で構想発表会を3月15日実施した。

■構想発表会要項

R4 プレまっナビ「課題研究構想発表会」 実施要項

第1学年

- 1 目的 ①地域課題解決に向けての研究について、研究構想を発表することで、生徒自ら研究の対象・目的・方法等について確認する機会とする。
②課題研究活動のあり方など、今後の研究について松高生から意見をもらい、専門家からアドバイスを受けることで研究の方向性を確かめる。
③全体の前で発表することで、本校のスクールポリシーである、キャリア形成力、責任行動力、ふるさと貢献力を身に付けさせる一助とする。

2 日時 令和5年3月15日(水) 13:05~16:00

3 場所 本校コモンホール

4 発表者 松浦高校1年生(53名)・・・12班

5 内容 1人一台タブレットを使い、パワーポイント資料にて発表を行う
長崎県立大学の学生による卒論プレゼンおよび学生からのまっナビアドバイス

6 発表方法

(1) 発表時間：各班10分(発表4分・質疑応答4分・移動2分)

(2) 発表の目安

スライド① 班名・班員名・タイトル スライド② 解決したい課題

スライド③ 「②」の深刻度を示すデータ スライド④ タイトルおよび設定理由・SDGs
スライド⑤ 到達目標と達成目標 スライド⑥ 活動を進める上での現状での悩み

7 テーマ一覧(現在の。変更の可能性あり)

班	テーマ	班	テーマ
1	ガチャポン・キャラクター作り	7	起業
2	お菓子開発	8	ゴミ問題・ゴミ活用
3	フードフェスタ	9	農業支援
4	ゲームを使って町おこし	10	空き家活用
5	廃校活用	11	イベント実施・参加
6	少子高齢化	12	「長者と河太郎」

2-4 成果と課題

令和4年度の課題研究活動による、1年生の「プレまつナビ」の成果と課題は以下の通りである。

(1) 成果

- ・バスツアーやフィールドワーク(志佐んぼ)、市役所によるブース形式説明会などの活動を通じて、地域課題や地域資源に関する知識を得ることができた。
- ・フレームワーク(ロジックツリー)の学習や個人テーマ発表会などの活動を通じて、課題解決に必要な技能を習得することができた。

(2) 課題

- ・生徒が自らのキャリアを意識した取り組みとなるよう、総合的な探究の時間とのつながりを意識しながら、計画的に進める必要がある。
- ・生徒の更なる資質・能力の向上を目指し、まつナビのみならず、他教科においても課題解決に向けた資質・能力の育成を念頭に置いた授業改善を行う必要がある。

3 まつナビ（第2学年）

3-1 研究開発のねらい

1年次に設定した課題研究活動のテーマについて、コンソーシアムの協力を得るなどして、フィールドワークを含む課題研究を計画的に進める。課題研究発表会においては、コンソーシアム構成員を中心とした地域等に実践報告を行うことで、地域を大切にする姿勢や課題解決能力の育成を図る。

3-2 令和4年度の実践活動

業務項目		実施日程											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年	D研究構想	1	2	3									
	Eフィールドワーク				1			1	1				
	F中間発表・振り返り					1	2	2					
	G校内、課題研究発表・振り返り							2	3	2	2		
	Hまつうら仕事図鑑（仮称）											2	2

3-3 実践報告

(1) D研究構想

次ページの実施要項のとおり、生徒自らの研究の対象・目的・方法等について確認し、アドバイスを受けることで研究の方向性を確かめるために、課題研究構想発表を行った。



■課題研究構想発表会

■実施要項

まつナビ・プロジェクト” 2年生課題研究構想発表会 実施要項 第2学年 MNP チーム

1 目的

- (1) 地域課題解決に向けての研究について、研究構想を発表することで、生徒自ら研究の対象・目的・方法等について確認する機会とする。
- (2) 課題研究活動のあり方など、今後の研究について松高生から意見をもらい、専門家からアドバイスを受けることで研究の方向性を確かめる。
- (3) 全体の前で発表することで、本校のスクールポリシーである、キャリア形成力、責任行動力、ふるさと貢献力を身に付けさせる一助とする。

2 日時 令和4年5月25日(水) 6・7校時(13:45～15:15)

3 場所 本校 教室棟3階 各指定教室

4 発表者 松浦高校2年生(82名)・・・10班

5 内容 ブース形式による発表会
1人一台タブレットを使い、パワーポイント資料にて発表を行う

6 日程 13:45～14:25 1～5班発表
14:35～15:15 6～10班発表

7 発表方法

- (1) 発表時間は、ひと班3分です。その後、質疑応答を3分、(移動2分)を予定しています。
- (2) 発表の目安はこうです。
 - パワーポイント1枚目 「わたしたちのテーマはこれ！」(15秒)
 - パワーポイント2枚目 「どうしてこれをやる必要があるとわたしたちは思っているか(30秒)
 - パワーポイント3枚目 「で、班でこんな協議を行ってみた。」(45秒)
 - パワーポイント4枚目 「だけど、わたしたち、実はこれが今の悩み。」(1分)
 - パワーポイント5枚目 「これからこうやろうと思っているけど、みなさんはどう思う？」(30秒)

8 発表後の質疑応答について

- (1) 各班の発表の後、「質疑応答」を行います。
質問だけでなく、感想も言ってあげてください。ただし、ダメ出しはダメ。「～してはどうでしょうか」のように、前向き発言をしよう。
 - 「なぜ～？」
(例) なぜ、地域を活性化させるために、イベントを行おうと考えたのですか。
 - 「ここが素晴らしいと思っています。」
(例) 中学生も巻き込んだイベントが素晴らしいと思っています。
 - 「悩みについては～と思います。」
(例) イベントに必要なお金は、バザーなどを同時並行で行うと良いのではと思います。

(2) メッセージカード

→質疑応答後に、発表班の人たちに、メッセージカードを渡しましょう。

■ 発表に用いたスライド

6班 松浦市の事業所（製菓店）との協働で商品開発（特産物を生かす。）を行う。

 <p>松高生と地元のお店で お菓子の共同開発</p>	<p>なぜこのテーマを設定したのか..</p> <ul style="list-style-type: none">• 地域とのつながりを強めたい!!!• 松浦高校を少しでもPRしたい!!!• 地元の商品を多くの人に知ってもらいたい!!!
<p>班でこんな協議を行ってみた</p> <ul style="list-style-type: none">• どこのお店にするのか• どうやって松高をPRするのか• どんな商品にするのか• 特産物を使うか 	<p>私たち、実はこれが悩み</p> <ul style="list-style-type: none">• 予算• お店の方に承諾を得られるのか• 何をすれば松浦高校をいろんな人に知ってもらえるか 
<p>皆さんどう思う??</p> <ul style="list-style-type: none">• 今後はお店を決めたり、何の商品にするか話し合う• どうやって作った商品を広めるか 	<p>ご清聴ありがとうございました。</p> 
	

2班 スタンプラリーを実施して、集めることができたならば、景品（シールなど）の提供を事業所等の方をお願いします。

松浦の良い所を知ってもらう

・松浦のいろんな場所や特産物を
知ってもらうため

・松浦に来てもらうため



- ・どこに置かせてもらうか
- ・スタンプのデザインをどうするか
- ・景品をどうするか



店への交渉



デザイン

費用



店や駅への交渉

景品の作成 (ステッカー)

スタンプの作成

(メロン、トラフグ、つつじ、アジフライ、
ブドウ、椿など)



(2) Eフィールドワーク

①市役所による説明会

フィールドワークの前に、松浦市における課題等を知るために、松浦市各課によるブース形式説明会を実施した。

■事前調査

松浦市役所の方々によるブース形式説明会 事前調査

あなたが御話を聞きたい！興味がある！といった仕事内容の「課」を3つ書いてください。

2年 組 番 氏名		
	NO	課
記入例	1	総務課
第1希望		
第2希望		
第3記号		

◆松浦市役所の主な課と仕事内容

NO	課	仕事内容
1	総務課	行政や財政などに関わる仕事です
2	防災課	防災などに関する仕事です
3	政策企画課	ふるさと納税や松浦の魅力発信、人口問題などに係る仕事です
4	税務課	税金に関する仕事です
5	市民生活課	生活に関する相談窓口などの仕事です
6	健康ほけん課	健康促進や年金などに関する仕事です
7	長寿介護課	介護や長寿支援などに関する仕事です
8	子育て・こども課	子育てなどに関する仕事です
9	福祉事務所	福祉全般に関する仕事です
10	農林課	農業や林業に関する仕事です
11	水産課	水産業に関する仕事です
12	地域経済活性化課	観光や商工振興、公共交通などに関する仕事です
13	建設課	道路や河川などに関する仕事です
14	都市計画課	まちづくりなどに関する仕事です
15	会計課	管財、出納などに関する仕事です
16	上下水道課	水道に関する仕事です
17	教育委員会	小中学校や生涯学習などに関する仕事です
18	監査委員事務局	監査に関する仕事です
19	選挙管理委員会事務局	選挙に関する仕事です
20	議会事務局	市議会に関する仕事です

■生徒からあがった松浦市に聞きたいこと

<防災課>

- ・防災課とはどういうものなのか気になる。
- ・仕事をするにあたって気をつけていること。
- ・突然、大きな地震が起こったらどうしたらいいですか。
- ・一番大変なことは何ですか？

<政策企画課>

- ・現在どのような企画している施策がありますか。
- ・松浦市の魅力は何ですか。
- ・ふるさと納税とは何ですか。
- ・結婚応援とは具体的にどのようなことをして応援しているんですか。
- ・これまで松浦市を盛り上げるためにどんな企画を行ってきたのか。
- ・実現したかったが事情などにより途中で断念した企画はあるか。
- ・ふるさと納税の返礼品の中で人気なもの
- ・政策企画課をやっていて一番大変なこと
- ・仕事をしていて楽しいと思う瞬間
- ・仕事で難しいところは何ですか。
- ・どんな時にやりがいを感じますか。

<農林課>

- ・普段どんなことをしているんですか？
- ・これからどうしていきたいと思っていますか？
- ・農林課で一番気をつけている仕事は何ですか？

<水産課>

- ・水産課にはどんなことが必要とされるのか？

<市民生活課>

- ・市民からの相談でどんな内容が多く寄せられるか。
- ・松浦市の生活環境（制度、自然環境 etc...）はほかの市町村と比べてどうなのか。
- ・仕事のやりがいはなんですか。
- ・市民が暮らしやすい街を作るためにどのようなことを心がけていますか。
- ・市民の生活のどのような所に関わっているのですか。
- ・人口増加のためにどのようなことをしていますか。
- ・仕事で大切にしている事は、何ですか。
- ・市民生活課をやっていて一番大変なこと
- ・松浦の市民生活の特色
- ・きつい仕事はなんですか。

<子育て・子ども課>

- ・子供の主な遊び場はありますか。
- ・一番きつい仕事は何ですか。
- ・子供を育てるためには何が1番大切ですか。
- ・子育てについて一番多い相談は何ですか。
- ・子育て支援とはどのようなものなのか。
- ・支援の活動内容を知りたいです。
- ・松浦の魅力を生かした物はどのくらいあるか。
- ・子育て環境が整っている松浦にまだ足りない部分はあるか。
- ・子育て世帯の数は増加しつつあるか、減少しつつあるか、それとも停滞気味か。
- ・松浦では一日何人子供が生まれていますか。
- ・コロナ禍での影響はありますか。

<建設課>

- ・やりがいは何ですか。
- ・仕事で気を付けていることは何ですか。
- ・普段はどのような仕事をしているか。

- ・なにがやりがいになっているのか。
- ・松浦市の水揚げ状況
- ・海洋汚染について
- ・アジフライに関わっていることはありますか。
- ・アジは毎日どれくらい獲れていますか。
- ・鮪について聞きたいです。

<地域経済活性化課>

- ・経済を回すためにイベント以外にどんな取り組みを行っているのか。
- ・これまでに行った取り組みで一番反響がよかったものは何か。
- ・観光物産係とありますが観光スポットをすべて把握しているんですか。
- ・一番松浦市で有名な観光スポットはどこですか。
- ・地域活性化のためにしていること。
- ・仕事をする時の心構え。
- ・活性化していない原因は何ですか。
- ・グッズで一番人気なもの。
- ・松浦市で行っている活動
- ・どんなことをすれば活性化するのか。
- ・地域が活性化されることはあるのか。
- ・普段どんなことをしているんですか。
- ・これからどうしていきたいと思っていますか。
- ・仕事内容、松浦市が持つ課題。
- ・地域経済活性化は主にどのような仕事をしていますか。
- ・仕事をしている中で大変な時は何ですか。

- ・松浦に必要だと感じる施設は何か。
- ・今後作る予定のもの。
- ・建設をする時に重要なことは何か？
- ・特に力を入れているところ。

<都市計画課>

- ・松浦市にはどれくらいの数の空き家がありますか？
- ・空き家を活用した取り組みをしていますか？
- ・都市計画の内容を知りたいです
- ・松浦市の発展のためにどのような都市を作ろうと思っているのか。
- ・都市計画をするうえで大切なことや気を付けているところは何か。
- ・都市計画係で一番多い仕事はなんですか？
- ・仕事をする上で大切にしていることは何ですか？
- ・どのような人たちで計画しているのですか？
- ・今、都市計画課が取り組んでいるもの、また取り組もうと予定しているものは何か？
- ・まつナビにしてほしくない（迷惑になる・現実的に不可能など）ことはなにか？
- ・どうしたら都市が大きくなると思いますか？



◆松浦市各課によるブース形式説明会

②外部講師によるフィールドワーク研修会

フィールドワークの技能を高めるために、コーディネーター石田奈津子氏による外部講師によるフィールドワーク研修会を実施した。



◆フィールドワーク研修会

■ 研修会後のアンケート

- ・ 地域のために自分の力を使いたい。
- ・ コロナ禍の中でもできることを考えて実行すれば、できることはある。
- ・ 自分たちが活動してワクワクすることは何か。
- ・ 地域活性はその地域に住んでいなくても貢献することができる。
- ・ まずは飛び込んでみることに。
- ・ 他の地域からでも来たいと思ってもらえる街にできたらいいと思いました。
- ・ 自分がその地域にいなくてもその地域の課題や改善点などを変えて小その地域を活性化させていく事が出来るというお話を聞いて私は松浦に住んでいないので、まつナビを通して自分が住んでいる地域も活性化させていきたいと思いました。

- ・解決できそうにない問題でも工夫を凝らせば解決できるかもしれない
- ・自分が面白いと思うことを計画すること
- ・いろんな組み合わせをすることで今までと違った考え方が生まれるということがわかりました。
- ・自分が夢中になれるような課題解決策を考える。
- ・通い続けると少しずつ話してくださるようなこともあるという事
- ・まずは自分たちがフィールドワークを楽しんで取り組めるような方法で、学習をしていくのが大切ということ
- ・必ずしも地元の中だけで取り組んでいなくても、地域外でも取り組んで、観光客発展などにつなげることができるということ
- ・まずは自分たちが楽しめるような課題設定にすることが大事だということを学びました。
- ・身近なことを変えていくことが大きな変化へとつながるんだなと思いました。
- ・客観的に何となくしたほうがいいかな、ではなく自分たちが楽しめるような事をしたほうがいいという話。
- ・自分事として捉えられる身近な課題から解決していくことが大切。
- ・綺麗な意見を言うのではなく、自分の思った意見を素直に言う。
- ・その町の課題を解決するためにその町に残る必要はない。
- ・地域課題を難しく考えすぎているから、もっと身近なものでいい。
- ・自分たちが向き合っているのは社会ではなく地域だということ。
- ・社会のなかでの課題ではなくまずは自分や自分の周りの人の悩みなどを課題として挙げること。
- ・別の二つのものを合わせてフィールドワークをする。
- ・身近な悩み事をヒントにする。
- ・これからのフィールドワークに力を入れていきたいです。
- ・フィールドワークをするにあたって、必ずしもその地域に住まないといけないことはない。フィールドワークはいろんな方法がある。
- ・お寺と何かを組み合わせたり教育と何かを組み合わせたりするアイデアがすごいと思った
- ・地域にはいろんな文化などがあること
- ・その場所にいなくても地域に貢献できること。
- ・いいことを言おうと考えすぎない。
- ・動機としては「自分がこうしたいから」というものでも、それが他の人にも喜ばれるものになることがある。
- ・自分が楽しいと思える活動をする。
- ・地域への活動は地域外でもできる。
- ・自分たちの身近なところから考えて解決していく。

③大正大学教授浦崎太郎先生による講演

高校-大学-地域が連携する人材育成モデルを多角的な視野から調査研究を進められている国内の第一人者、大正大学地域創生学部教授浦崎太郎先生に御講演いただくことで、本校のまつナビ・プロジェクト活動の学びをより一層深めることを目的として、講演会を実施した。



◆活動の学びを深める講演会

④フィールドワーク行程

課題研究活動の一環として、実際に地域を歩くことで課題研究をさらに深化させることと、地域とのコミュニケーション能力を高めることを目的として、以下のとおりフィールドワークを実施した。

■フィールドワーク実施一覧（令和4年7月21日）

<p><佐世保市></p> <p>1班 松浦市の認知度のアンケート</p> <p>4班 イベント開催のために、イベント運営者にインタビュー</p> <p>9班 キッチンカーにアンケート</p> <p>10班 商店街でインタビュー</p> <p>往路：松浦高校 → 島瀬町 → 佐世保駅</p> <p>復路：佐世保駅 → 島瀬町 → 松浦高校</p>
<p><松浦市></p> <p>2班 スタンプラリーに協力してくれる店舗探し</p> <p>松浦高校 → 松浦駅 → 調川駅 → 魚市場食堂 → 調川駅 → 今福駅 → きらく → 今福駅 → 松浦駅 → 松浦高校</p> <p>3班 福島の魅力発見</p> <p>松浦高校 → 松浦駅 → 福島口 → 浦ノ崎港 → 福島港 → 福島支所 → 福島歴史民俗資料館 → 浦ノ崎港 → 福島口 → 松浦駅 → 松浦高校</p> <p>5班 マップ作りのための情報収集</p> <p>松浦駅 → 御厨駅 → 滝尾川楽園・大崎海水浴場・松浦駅 → 志佐 → 松尾農園・変竹林・アミスタホテル・松浦シティホテル・あじ彩 → 松浦高校</p> <p>松浦駅 → 福島口 → 福島港 → 福島口 → 調川駅 → 魚市場 → 調川駅 → 松浦駅 → 松浦高校</p> <p>7班 アジフライに合うタルタルソースづくりのためのヒント探し</p> <p>松浦高校 → 調川 → 松浦高校</p> <p>松浦高校 → 今福 → 松浦高校</p>

<松浦・伊万里市>

6班 お菓子作りのコラボのために協力店探し

松浦高校 → 松浦駅 → 鷹島口駅 → 百枝製菓 → 鷹島口駅 → 伊万里駅 →
→ 松浦駅 → 松浦高校

<平戸市>

8班 アジフライを揚げたときに発生する廃油の有効利用方法探し

松浦高校 → たびら平戸口 → 平戸市役所 → 中の原 → 平戸市役所 →
たびら平戸口 → 松浦高校



■フィールドワーク振り返り

<フィールドワークでわかったこと>

- ・外国人は優しい。
- ・断られてメンタルがやられた。
- ・意外とコミュニケーションが取れた（外国人も含め）。
- ・英語の難しさを感じた。
- ・イベントについてイベントをする上でする場所、時間帯、人の集め方、広告の仕方など。
- ・各店の目玉商品は、新鮮な魚や野菜だったと分かった。また、各店での仕事内容についても、お話を聞くことができた。
- ・自分たちのやりたいことをわかりやすく伝える難しさ。

- ・開発する商品を考えること。
- ・百枝製菓さんとの商品開発が可能だということ。
- ・タルタルソースの作り方。
- ・おすすめの材料。
- ・松浦市内の話聞きに行った飲食店はどの店も協力的で廃油をもらうことが約束できた。また、作った廃油石鹸の販売もできることになった。
- ・鶴丸設備も協力的で聞きたい話を聞くことができた。また、鶴丸設備の社長や上田さんに松高とコラボをしたいといわれた。
- ・人が優しかった。
- ・アンケートを取るのは、とても大変だと思った。
- ・松浦のことについて知っている人が結構いた。
- ・年代が高い人が多かった。

<今後の活動で協力してくれそうなヒトや活かせそうなモノ>

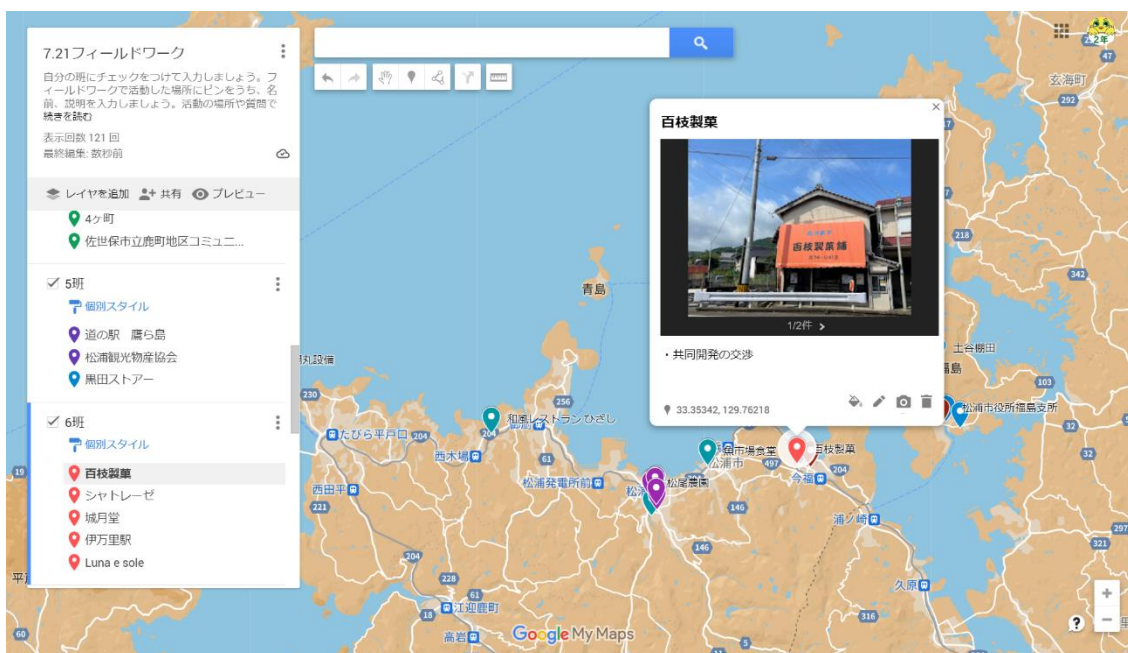
- ・調査に行ったすべてのお店の方々が、協力すると言ってくれた。
- (道の駅 鷹ら島・黒田ストアー・観光物産協会・魚市場食堂)
- ・百枝製菓店さん。
- ・百枝製菓の丸ボーロ。
- ・地元の食材。
- ・あじ彩、松尾農園、きらくなどの飲食店。
- ・鶴丸設備。
- ・キッチンカー。
- ・松浦の魚。

<今後の取組みについて>

- ・アンケートの集計。
- ・パンフレットの構想図を作る。
- ・パンフレットの内容の確定。
- ・パンフレットを作る方法について情報を集める。
- ・募金活動をすること。
- ・バザーをすること。
- ・文化祭での脱出ゲームの開催を目指すための取組みを行う。例えば、クイズを考える。場所の確保など。
- ・本発表までに今回調べた情報をもとに、サイトを作成する。
- ・百枝製菓さんと話し合いをして自分たちの作りたい商品と百枝製菓の丸ボーロを組み合わせたお菓子を考えて決まり次第、百枝製菓さんに交渉しに行く。
- ・地元の食材を使う場合農家さんに交渉する。
- ・タルタルソースの試作品を作りあじ彩などの飲食店に試食してもらう。

- 出来上がったタルタルソースを飲食店に提供する。
- ポスター、看板作り。
- 松浦の特産品をネットを利用して広める。
- アンケートの結果をまとめる。

■Google マイマップを作成し班ごとに訪問先や情報を共有した。



⑤実践活動

(ア) 松浦キッチンカー祭り

私待つわ、いつまでも待つわ
松浦キッチンカー祭り
with文化祭

開催日：10/16(日)
場所：コモンホール前
時間：10:20-14:00
出店：4店舗

R☆Sカフェ
fruits cafe[Vitamin Berry]
RUTAN'S CAFE

★ジュエリースポップコーンあっとみい★ 🍅スマイルトマト号🍅

松浦高校まつナビ
大村・坂本・松口・山口







■業者との事前打合せ

■作成したポスター





■キッチンカーでの販売

(イ) 地元の事業所である百枝製菓とコラボした商品開発



■百枝製菓の丸ボーロに、松高生のアイデアでチョコレートをコーティングした”まつボーロ”



■シールのデザインも行った。



丸ぼうろ3種



百枝製菓舗
松浦市今福町通免453

店主 百枝 秀樹さん(笑)

アレンジ商品人気

祖父が100歳になる前に、私で3代目、百枝 秀樹さん。お菓子作りは10年ほど前から。お菓子は例え年を重ねても、地味に「松浦」にちなんで、シプライの「焼き印」入りの「丸ぼうろ」を作っています。松浦製菓とコラボして、チョコレートチョコチップ

ツプを使った「まつボーロ」(四・五・六日)の手付けのため、製造が難しいかないぼのヒット商品になりました。丸ぼうろはいつでも1個から販売、営業時間は午前8時～午後7時、不定休、電話0945-6-74-0413。(大島信裕)

共同開発した菓子「まつボーロ」など発表

松浦高生と市内の製菓店が共同で開発した「まつボーロ」

松浦高生 地域課題を研究

「まつナビ」学習活動で、地域課題の研究発表する松浦高生 一松浦市文化会館

共同開発した菓子「まつボーロ」など発表

本年度は2年生74人が10班12グループに分かれ、約10カ月にわたって課題に取り組んできた。今回は昨年12月の校内発表会での審査で上位に選ばれたグループが舞台で、残りのグループは同会館のロビーや小ホールでポスターセッションとして発表した。

発表会には同校の1、2年生約120人のほか、このほか、QRコードを使った観光ガイドマップの作成、廃油を使ったせっけんの開発など、アイデアあふれる研究成果の発表があった。

(大島信裕)

県立松浦高(舟越裕校長、218人)と松浦市が協働で実施している地域課題解決学習「まつナビ・プロジェクト」の研究発表会が18日、同市志佐町の市文化会館であった。

市立志佐中の1年生約80人も訪れ、高校生の研究成果に聞き入っていた。舞台発表のうち、6班は「松高生と地元のお店でお菓子の共同開発」をテーマに発表。同市今福町の百枝製菓(川野秀明店主)の協力で、「丸ぼうろ」の半分をチョコレートでコーティングし、もう半分にチョコチップをまぶした「まつボーロ」(1個150円)を開発した。パッケージのシールも高校生がデザイン。まつボーロは発表会後に会館内で300食を限定販売、好評だった。今後は百枝製菓のほか、市内でのイベントなどで販売する。

「明国の発案では、商品化するもの・丸ぼうろ・雲み・餅をどうするか、特産物は使うか・活かしてできるお菓子以外で商品は売れるのか」

(ウ) 家庭から出る廃油の有効活用

松浦高校の生徒・職員から調理で使用した後の廃油を回収し、石鹸づくりと発電機を回す燃料を作り、イベントでの電力供給を行った。



⑦校内発表会

■実施要項

まつナビ・プロジェクト（MNP）校内発表会実施要項

第2学年
MNP チーム会議

1 目的

本校で取り組んでいる「まつナビ・プロジェクト」は、地域との協働により、地域を素材にして課題研究に取り組み、本気で松浦の未来を担いたいと考える人材育成を目指している。その中でこれまでのMNP活動の研究成果を、班活動を通じて学んだことを、自分の言葉で語ることを目的とする。

2 日時 令和4年12月14日（水）14：10～15：50

3 場所 コモンホール

4 対象 (1) 2年生77名 1年生55名 計132名

(2) 評価サポーター（審査員）変更の場合あり

地域協働学習実施支援員 中上 徹 様 (50点)

カリキュラム開発等専門家 井手 弘人 様 (50点)

高校教育課 指導主事 高比良周一 様 (50点)

校長 舟越 裕 (50点)

計200点

5 会次第

14：10～はじめのことば

14：11～校長挨拶

14：15～45 1班～6班（発表5分+入れ替え1分）

15：51～15：00 休憩

15：00～15：42 7班～13班

15：42～講評 高校教育課高校教育班 指導主事 高比良 周一 様

15：49～ おわりのことば

6 その他

(1) 中間発表後に出したループリック評価にて行います。

(2) 中間発表（100点）と校内発表（200点）の合計300点で、1月18日（水）松浦市文化会館で開催する課題研究発表会に進む班（5つの班）を決めます。

(3) 課題研究発表会 壇上発表に進めなかった班は、当日、松浦市文化会館でポスターセッションを行います。

(4) コモンホールの机を出して、イスのみ132名分を出して行います。

ただし、審査員の先生方には長机を準備します。

令和4年12月14日(水)

16:00~17:00

校長室

- 時間が短かった。(質疑応答の時間も含めた時間設定の見直しが必要)
- 活動の格差が二極化していた。あと1、2週間あれば、もっと良いものができていたという班がいくつかあった。
- 間に合わないときは、先生方でしっかり背中を押すことが必要では。
- ネタ(研究テーマ)はとてもバラエティに富んでよかった。
- お土産の班は良かったが、「ちあん」さんや「ひでみ」さんなどと協働でブラッドオレンジの開発をすればもっと面白かった。
- アドバイスを実践に移していない班があった。
- クイズの班(4A班)は最初できるのか?と心配だったが、こども博に参加できたので良かった。この班こそ、地域の歴史などに触れることで、「教科の学び」と横のつながりを持たせると良かったのでは。
- 成功体験を発表している班は、発表の質も良かった。
- もっと、学年のつながりも考えるとよい。2年生から1年生へつなぎたいと語る班がいくつか見られた。サステナビリティが回っていけば、活動の幅が広がる。
- 松高関連のツイートについては、「まつナビ公式ツイッター」になっているが大丈夫か。
- 惜しい発表がいくつかあった。
- キッチンカー(9班)については、今後、学校として「学校の文化」にしていくのか、引き継ぐことが良いことなのか等を検討する必要がある。
- 似た活動(アジフライソースやQRコードを使用した活動)をしている班は、途中で再編成をしても良かったかも(活動に厚みが増していたかも)。
- 冬休みや残りの時間を使ってしっかりブラッシュアップさせてほしい。
- 1年生が前の席が良かった。
- ポスターセッションを中間発表でやってはどうか。意見をたくさん聞くことで、校内発表まで、具体的にブラッシュアップされる。
- いろいろ(パワポ発表だけでなく)なプレゼンの機会を与えると良い。
- アウトプット(パフォーマンスステージ)の部分で、生徒のいきいきとした「伝え方」や「話し方」などを生かすために、リミッターを外してあげることも必要では。
- 単なる成果報告にならないようにする。
- 廃油の班(8班)は、大きいサイズのものを作成すると良かった。これから外部コンテストに出すときにインパクトが出る。
- 8班は、化学的にどのようにしてせっけんを作るのか説明するともっと良くなる。
- 文化会館の課題研究発表会は、2年生に関わってくれた事業所は呼ぶのか(各班関わりのあった事業所を呼ぶ予定である)
- 3月にはJパワーに講演もしくは見学をお願いする予定。



■校内発表会

■実施要項

2年生“まつナビ”課題研究発表会 実施要項

松高第2学年

MNP チーム

- 1 日 時 令和5年1月18日(水)
- 2 場 所 松浦市文化会館 ゆめホール
- 3 対 象 松浦高校2年生(74名)
松浦高校1年生(53名)
コンソーシアム連携機関 運営指導委員 市議会議員
松浦市職員 カリキュラム開発専門家
地域協働学習実施支援員 県事業管理機関
市内小・中学校教職員 県公立学校教職員 地域事業所
志佐中学校

(合計) 約250名

4 会次第

- (1) 13:00～13:50 ポスターセッション 【小ホールABC+ホワイエ】
13:00～13:25 (2分発表+7分質疑応答+1分移動)×2セット
松高1年生・市内学校関係者、コンソーシアム構成
員・運営指導委員 志佐中学校
県管理機関 県教職員 地域事業所 等
- (2) 14:00～14:10 開会行事 【ゆめホール】
校長挨拶(舟越 裕 校長)
- (3) 14:10～15:25 課題研究発表
- (4) 15:25～15:35 閉会行事(生徒代表)
講評 長崎県教育庁高校教育課
指導主事 高比良 周一

5 発表方法

- (1) 課題研究発表…発表時間5分+質疑応答7分+移動3分

発表順	班	プロジェクト名
1	5班	QRコードで手軽なマップ作成
2	9班	私松わ、いつまでも松わ 松浦キッチンカー祭り
3	7班	タルタルプロジェクト
4	6班	松高生と地元のお店でお菓子の共同開発
5	8班	SUSTAINABLE×松浦

(2) ポスターセッション

NO	班	プロジェクト名
1	1班	あなたは何しに松浦へ？
2	2班	お気に入りのスポットを紹介しよう
3	3班	現在の松浦のお土産事情とこれからの活動
4	4班A	ゲームを通して松浦の魅力を伝える
5	4班B	究極の松濃（まつこう）ダレ
6	10班A	松浦を知ってもらおう
7	10班B	マツドリー焼きの販売について

2分で発表＋7分質疑応答＋1分で移動

前半①13:00～ ②13:10～

後半①13:25～ ②13:35～

6 その他

会終了後、出口付近で、6班による「まつぼうろ」の販売実習があります。（1個150円です）



■ポスターセッション



■ステージ発表



菓子店と共同で考案した「まつポーロ」を販売する松浦高の生徒たち

アジフライ廃油使い せっけん作りを提案

松浦高生が研究成果発表

松浦市の松浦高の生徒が、市と協働して地域課題の解決策を考える「まつナビ・プロジェクト」の2022年度の研究成果発表会が18日、市文化会館であった。

共同開発の菓子も好評

同高の2年生が班に分かれ、テーマを決めて課題の調査や研究に取り組み学習活動。昨年1月の校内発表会で選ばれた五つの班がそれぞれ5分で成果を発表した。

「タルタルプロジェクト」と名付けた班は、アジフライに合うタルタルソースに仕上げ揚げなごを入れるユニ

「タルタルプロジェクト」と名付けた班は、アジフライに合うタルタルソースに仕上げ揚げなごを入れるユニ

「タルタルプロジェクト」と名付けた班は、アジフライに合うタルタルソースに仕上げ揚げなごを入れるユニ

「タルタルプロジェクト」と名付けた班は、アジフライに合うタルタルソースに仕上げ揚げなごを入れるユニ

「タルタルプロジェクト」と名付けた班は、アジフライに合うタルタルソースに仕上げ揚げなごを入れるユニ

(福田章)

3-4 成果と課題

令和4年度の課題研究活動による、2年生の「まつナビ」の成果と課題は以下の通りである。

(1) 成果

- ・課題研究発表におけるプレゼンテーションスキルの修得
- ・グループ活動や地域の方々との交流による協働性の育成
- ・フィールドワークに基づいた課題発見力の育成

(2) 課題

- ・将来的に地域社会に貢献したいと考える人材の育成
- ・地域でのヒアリング・インタビュー・アンケートを実施する力
- ・フィールドワークの結果や課題改善の方法をプレゼンテーションする力

4 ポストまつナビ（第3学年）

4-1 研究開発のねらい

- (1) 2学年の時に行った課題研究を個人研究としてまとめることにより、自己が養った力を顧みるとともに、それを今後どう生かすかを考える機会とする。また、これまでの活動の振り返りや課題解決に向けてできることを検証することにより、郷土に対する愛情をさらに育み、卒業後も地域への想いを大切にすることを醸成する。
- (2) 2年次に行った活動に関して、引き続き地域の協力を得ながら、具現化できるものを探り、実践することで、地域へ貢献する姿勢を育成する。

4-2 令和4年度の実践活動

業務項目		実施日程											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年	I これまでの研究成果に関する論文作成		1					1					
	J 校内発表における提案事項の校外実践							1	2	2			

4-3 実践報告

- (1) I これまでの研究成果に関する論文作成

①論文に関する講義

■ 4月13日（水）本校体育館 長崎大学教育学部井手弘人准教授による、論文に関する講義

高校生らしい研究論文を書こう！

就職や進学に役立つように書こう！

そのコツは、プロセス（過程）をきちんと伝えられるかどうかが大切。

（面接試験などでは、採りたい側は、その結果までの過程を知りたい。）

残念ながら、周りには今回やったことを批判的に見る人もいる

（高校生がこんなことをやって何の役に立つのか・・・）

↓

それは、過程を知らないから。

↓

だからこそ、過程を伝えて、わかってもらおう。伸びしろを伝える。

（面接官は、短時間でそれを引き出すことを考えている）

高校生は、過程の中で伸びている。だから、面接では、それを自分から語れるようになってほしい。

○過程が見えていない人に、見えるような論文にしてください。

こういう貢献をした。こういう失敗をした。こういう学びをした。

こういうふうに解決した。こういうふうに変更した。

○ここまでやった（成長した）という過程を図にまとめると、ワンランクアップ。

○急成長でも small step でもいい。前に進むことが大切。その実感が大切。

○成長の過程を恥ずかしがらずにアピールし、印象に残すようにする。

②論文作成

2年次のまつナビ活動時間に「論文作成例」を配布し、2年次に整理していた資料を使いながら、3年生1学期を中心として論文作成を行った。

■論文スタートアップ講座（2年生の3月末に配布）

令和4年3月22日

研究論文について

まつナビ・プロジェクト

3月17日のまつナビ課題研究発表会、お疲れ様でした。2年間の成果を十分に報告できたでしょうか。これまでは、似たような研究を志す同級生と「班」を形成して活動を行ってきました。

これからは、この2年間で学んだことを、進路実現に結びつける3年生となります。つまり、「班」活動から、皆さんの進路は多岐に渡りますので、その進路実現に向けて「個」のまとめが必要になるということです。そこで長崎大学、井手弘人先生との協議の中で、先生から以下のようなアドバイスがありました。

1. 「システム思考」で表現する研究論文にする

「あなたたちが行ったことは松浦では誰もやっておらず、それだけでまず価値がある」ことを証明していくものにする。

2. 以下の2点を松浦市総合計画ベースで探究・説明する

- ・自分たちの行ったことが、もしなされていなかったら、未来の松浦はどうなっていたか。
- ・自分たちが行ったことで、未来の松浦はどうなっていくことができるのか。

→単なる「いいことをやった」ではない、「新しいシステム形成の参画」を自分たちは行ったのだ、ということを実感する。

3. 「松浦市にたしかに関わったのだ」という記録を残し広く読んで継承いただく

→たとえば市立図書館まつナビコーナーで閲覧可能にする。

*この3つの視点で、「研究論文」を個人で完成させましょう。まだ、計画段階ですが、皆さんの論文は1冊の本にしたいなと思っています。

この春休みに、研究論文作成に向けて準備をしましょう。まずは2年間の振り返りです。予定では、5月の大型連休明けに「研究論文発表会」を実施したいと考えています。

*まだまだ、「まつナビ」の学びは進路実現まで続きます。第59回生全員第1志望合格、採用内定を目指しましょう。

■「3年生での研究論文作成に向けて」（スタートアップ講座時に配布）

1. 論文の基本的な構成（教科書 p 126）

(1) 表紙 Cover Page . . . 3年 () 組 () 番 氏名 () のことです。

(2) 要旨 Summary . . . ①研究背景 ②研究目的・意義 ③研究手法

④結果・考察 ⑤結論・今後の展望 ⑥引用・参考文献

(3) 序論 Introduction

(4) 基礎 Fundamentals

(5) 研究手法 Methods

(6) 結果・考察 Results&Discussion

(7) 結論・展望 Conclusions

(8) 謝辞 Acknowledgements

(9) 引用文献 References

参考文献 Bibliography

(10) 付録 Appendix

2. 松浦高校卒業論文では

「1, 論文の基本的な構成」の中で

(3) 序論→(5) 研究手法→(6) 結果・考察→(7) 結論・展望→(9) 引用文献・参考文献の構成にしようと思います。

3. 春休みの課題

「1, 論文の基本的な構成」の中で「(2) 要旨」の作成を行います。

振り返りも含めて、新学期最初の総合的な探究の時間までに次の2つのシートを仕上げてください。

課題研究活動の振り返りシート

3年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

①課題研究を通じて、興味深かったこと

②課題研究を通じて、大変だったこと

③課題研究を経験する前とあとで、どのような変化があったか

④課題研究を通じて得られた経験を今後、どのように活かしていきたいか。

ポストまつナビに向けて

3年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

①研究背景・・・初めて読む人にもわかるように必要な情報を紹介する。
②研究目的・意義・・・何を明らかにしようと思ったのか。その理由も紹介する。
③研究手法・・・フィールドワーク等、どのような手法を用いて調査・研究を行ったか。
④結果・考察・・・研究により得られた結果は。その結果から考えられること。
⑤結論・今後の展望・・・この研究を踏まえて、今後どのような研究が考えられるか。

③論文を使った模擬面接

作成した論文をもとに、今後の国公立大学の総合型選抜入試や推薦入試を想定して、代表者が質疑応答も含めた模擬面接を行った。

■実施要項

課題研究論文を使った模擬面接(案)

1. 目的：2年次に実施した「まつナビ」活動を、大学受験希望者の推薦入試等の一助とするために、その「成果」や「自分自身の強み」について、模擬面接形式で発表を行うことを目的とする。
 2. 日時：令和4年5月25日（水）
 3. 場所：3年1組教室
 4. 対象：3年1組
 5. 発表方法：代表生徒による模擬面接
3年1組14番 吉原 葉月（研究テーマ「松浦と考える未来」）【20分】
3年1組15番 渡邊 璃乃（研究テーマ「国際交流の発展」）【20分】
- (1) 面接内容【15分】×2名
- ①あなたはなぜ〇〇学部で学びたいのですか？
→「はい、・・・・・・・・・・」
 - ②あなたが高校時代に最も頑張ったことは何ですか？
→「はい、本校の特色でもある、地域との協働による課題研究活動『まつナビ・プロジェクトです』。私たちの班は・・・・・・・・・・」
 - ③あなたは自分の強みはどのような点だと思いますか。
→「はい、・・・・・・・・・・」
 - ④参観生徒が模擬質問をする。
- (2) 講評【5分】×2名
キャリア形成部主任（進路指導主事）

④論文集振り返り

作成した論文をまとめ「研究論文集」を作成した。その後、生徒やコンソーシアム構成員を中心とした地域への配布を行った。

■課題研究論文例

まつナビ・プロジェクト「まつナビ」 第6班「わくわくどきどき“みらいごっこ”」

子どもに必要なことについて

長崎県立松浦高等学校

3年1組2番 井元 紗羽

1. 研究背景

市役所の子育て子ども課の方から聞いたお話の中で、松浦市は子どもが参加できるイベントはあるが、地域によって差があり、少し離れた町になると、イベント会場まで簡単に来ることができず参加することが難しくなるという話がありました。そこで、普段イベントなどに簡単に来ることができない少し離れた地域に住んでいる子どもたちと一緒にイベントを開催することに決めました。これによってイベントに来てくれた子どもたちと交流し子どもたちの輪を広げることができる、住んでいる地域の魅力などを知ってもらうことができると考えました。そして、このイベントを通して松浦の良さを再発見してもらい、将来、地元松浦に戻ってきたいと思ってもらえるようにしようと考えました。

2. 研究の目的と意義

〈イベントを開催することの目的〉

- ① 離れた地域に住んでいる子どもたちがほかの地域の子どもたちと交流する機会を作ること。
- ② イベントに参加して松浦市の各地域について知ってもらうこと。
- ③ このイベントを通してわくわくどきどきを体験してもらい、子どもたちの日常を色鮮やかなものにする。

〈イベントを開催することの意義〉

このイベントが松浦市の恒例行事になりイベン

トに参加してくれた子どもたちが大きくなって結婚し子どもが生まれたときに自分がこのイベントで味わったことを思い出し、「やっぱり松浦っていい!」「松浦で子育てしたい!」と思ってくれる
→子育てしに松浦に戻ってきてくれる

3. 研究手法

○フィールドワーク

- ・海きららに行き、子どもイベントを開催するにあたっての注意点を聞いた。
- ・街頭（海きらら駐車場）インタビューでは、何があったらイベントに行きたいと思うか、小学生の間で流行しているものを質問した。
- ・福島養源小学校に行きイベントについての説明会を開いた。小学校の先生方と直接お話をし、福島町の現状や不足しているもの、したいこと、イベントに対する思いを聞いた。
- ・福島養源小学校 5,6 年生に福島について、福島養源小学校についてのアンケートを行った。

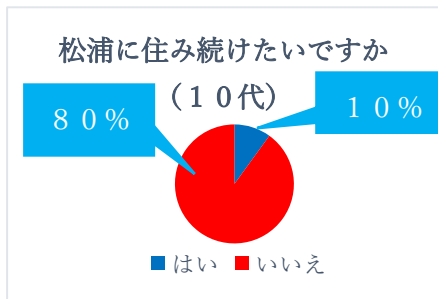
4. 結果・考察

松浦に住みたいですかというアンケートを実施したところ、10代では都会のほうが楽しそう、大学がないからなどの意見があり、10%が「はい」90%が「いいえ」という結果になりました。（資料1）

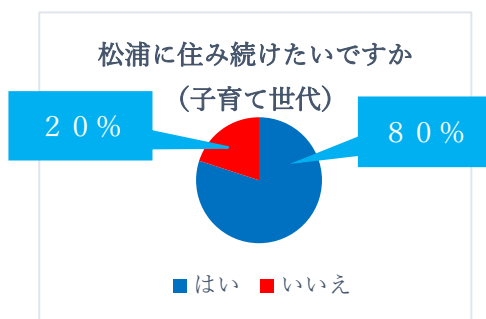
ですが、子育て世代に聞いたところ、10代とは全く異なり「はい」が80%「いいえ」が20%と、

「はい」と答える人が多くなっています。「はい」と答えた人の理由として、子育て支援が豊富で、人が優しく、自然が豊かで暮らしやすいという声が多くありました。(資料2)

【資料1】



【資料2】



しかし、小学生に松浦市の魅力や自分の町のことを聞いてみると「あれいいよ！これいいよ！」とたくさんの意見が出てきました。イベントは開催の準備をしていたのにもかかわらず、新型コロナウイルスの影響で断念せざるを得ず開催できませんでした。それでも、松浦には大学がないためいったん外に出ていくのはしょうがないけど、大きくなって結婚し子どもが生まれたときに、子ども時代に味わったわくわくドキドキを思い出し松浦に戻

りたいと思ってもらえるようなイベントを考えることができたと思います。(資料3)

【資料3】

イベントのポスター



5. 結論・今後の展望

今は、コロナ禍ということで、少しイベントを開催するのは難しいと思うけれど、実際に開催するという準備はできていたので、開催したいです。子どもたちがただ楽しめるだけではなく、工夫して思い出に残るものや、「遊ぶ」だけでなく「学ぶ」ということまで取り入れられた、イベントや交流会を開催して子どもたちのころに自分のふるさとの良さを見つけて後世に伝え残していくこと、イベントを開催して実際の感想を聞いてみたいです。さらに、私は小学校の教員になるという目標があり、実際に今回小学生とかかわることができ、とても良い経験となりました。この活動を通して、子どもが生き生きと楽しく、わくわくするようなことを考え、形式にとらわれずにたくさん冒険してみると新たな一面の発見や世界が広がることを知りました。これからも、概念にとらわれずに自分から様々なことを発信できる教員を目指したいです。

国際交流について

長崎県立松浦高等学校

3年 1組 15番 渡邊 璃乃

1. 研究背景

松浦市とオーストラリアのマッカイ市は姉妹都市提携を結んでいる。火力発電所で使用する石炭の輸入・輸出関係をきっかけとしている。松浦市は青少年使節団訪問や市民訪問、オーストラリアデーイベントなどの交流事業に取り組んでいる。2019年に姉妹都市提携30周年を迎え、ますますの発展が期待されている。

2. 研究の目的と意義

昨今の新型コロナウイルス拡大に伴い、ほぼすべての交流事業が中止された。市民にとっての交流機会は減少するばかりであり、そのような状況が両市民のお互いに対する興味関心の低下につながっていると推測した。そこで、高校生の私たちが先駆けとなって市民の皆さんに姉妹都市交流のすばらしさや重要性を再認識してもらうことを目的とし、活動を行うこととした。

3. 研究手法

目的達成のための活動

- ① 実態調査（意識調査）
- ② ZOOMでのマッカイ市の学生との交流
- ③ マッカイ市に関する紹介紙の作成

↓ 達成するために

7月下旬のフィールドワークでは2班に分かれて活動した。

1. 市役所の国際親善課を訪ねる

【マッカイ市の概要の説明、連絡先紹介】

2. 市内四カ所でのアンケート調査

【年齢、住まい、マッカイ市に関する項目に回答する街頭質問方式】

私は主にZOOM交流を担当した。

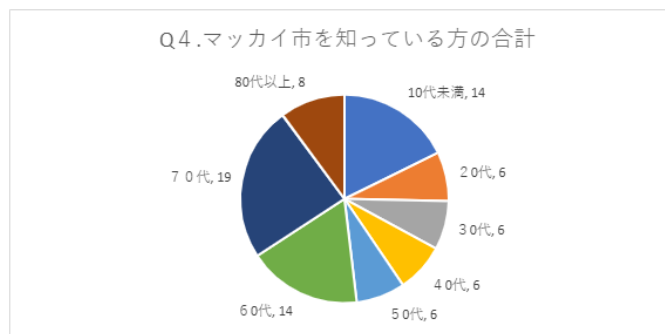
7月下旬 連絡先の入手

9月下旬 市役所を通じて一通目のメール

10月下旬 自分たちから直接、メールを送り始める
英語力に不安があったため、最初は市役所の方をお願いしていた。しかし、市役所とうまく連携することができなかつたため直接絡をとることになった。内容を考え、英語になおし、英語科の先生方に見てもらい訂正していただいた。日時、質問事項などについて十数回協議を重ねた。英語の返信メールを理解し、返答を考えることには、毎日かなりの時間を要し、苦勞した。

4. 結果・考察

①実態調査（意識調査）



↑（アンケート結果Q.マッカイ市を知っていますか？）

フィールドワークで行ったアンケート調査の結果から小学生や中学生といった若年層からの認知度や興味関心が低いことが明らかになった。私が小学生の時にはマッカイ市から訪れた学生と触れ合う機会が設けられていたが、今の小学生にその機会はない。他の直接的な交流ができるイベントも中止されているため、マッカイ市の存在そのもの

を知ることができないのが大きな要因だろう。交流機会の減少が興味関心の薄れをもたらしていることが明確にわかった。

② ZOOMでのマッケイ市の学生との交流



(↑当日の交流の様子)

【日時】 11月3日 日本時間 11:00～

AUS 10:00～

【場所】 松浦高校第8選択教室

【参加者】 松浦高校 MNP10班 6名

ホリースピリット高校 4名

当日は計画通りお互いの自己紹介から交流はスタートした。そのあとの質問タイムでは、私たちからの質問には返答もすべて英語で行い、マッケイ市の生徒からの質問にもすべて日本語で返答した。今学校で流行っていること、好きな教科などの学生らしい質問、マッケイ市のおすすめの場所などのマッケイ市の魅力について尋ねた。私たちが思っていた以上にマッケイ市の学生が積極的に参加してくれて、本当に嬉しかった。

私たちは「高校生の手で国際交流の機会をつくる」ということを主軸に活動を進めてきた。その中で私が今回のMNPの活動で得たものはこの3点だ。

1. 環境を整えば誰でも国際交流ができる。
2. 物事を実現させるには多くの人の協力が必要であること。
3. 他言語、異文化に触れることの楽しさ

たった1台のパソコンさえあれば遠く離れた土地の人と顔を見て会話ができた。この点では国際交流は意外と簡単であると言える。しかし、どのようにして交流する学校を見つけるのか、連絡はどう取り合うのか、どこでするのか、高校生だけでは解決することのできない問題に何度もぶつかった。それらを解決するためには市役所の方や先生方をはじめとする多くの有識者の力が必要不可欠であった。私たちの活動は多くの人の理解、協力なしには成し遂げられなかつただろう。国際交流の楽しさは実際に体験することで得られるものがあると今回改めて感じた。本場の英語に触れ、そこで生活する人の文化を知ることが本当に興味深く、おもしろい。

③マッケイ市に関する紹介紙の作成

アンケート調査の結果から若年層にマッケイ市について知ってもらうことが興味関心を高める手段だと推測した。その点もふまえて、紹介紙は市民の目に留まりやすい市報に同封することになった。

5. 結論・今後の展望

目的を達成するための活動

① ZOOMでのマッケイ市の学生との交流

② マッケイ市に関する紹介紙作成

ZOOM交流は計画通りに実現できた。紹介紙については市役所で協議中であり、今年度中には発行される予定だ。

松浦市とマッケイ市は姉妹都市提携を結んで2019年に30周年を迎えた。これからも途切れることなく関係を持続させるためにも若年層への認知は最大の課題だ。これまでの国際交流活動を伝え、「もっと知りたい」「私も参加したい」と少しでも思ってもらうことが国際交流発展の第一歩だと思う。

⑤進路研究

生徒の志望先に合わせ、企業や大学等の情報収集を行った。また、志望理由を考える際、高校生活で養った力を今後どう生かすかを考える機会を設け、その中でも「まつナビ」を通してどのような力を身に付いたかを「自分ごと」として振り返りを行った。

(2) J 校内発表における提案事項の校外実践

① 7月31日（日）『まるごと一日お楽しみDAY』参加

松浦文化会館で開催された上記のイベントに参加し、2年次のまつナビ活動で収集したバザー一品を3年生が販売した。

夏休みスペシャル

アジツライの聖地
長崎 松浦

まるごと一日お楽しみDAY 2022

7月31日(日) 10時～14時
参加費無料 (会場内有料ブースあり)

ふれあいホール
今年も会館&ルノンマルシェの
コラボイベントを開催！飲食・
雑貨・ワークショップなどが集結！
詳しくは裏面をご覧ください！

ロビー
ロビーコンサート
会館で利用団体による活動発表！
出演者
「管楽アンサンブル」(まつら音楽隊)
「オカリナ演奏」(オカリナサークルマーコット)
「歌と遊びのコンサート」(たいちろう一かおにいさん)
永橋バレエ教室も出演

リハーサル室
こどもバレエ体験 11:30～12:00
バレエ体験 13:30～14:00
(永橋バレエ教室)

小ホール
B フラワーアレンジメント体験教室
(フラワーサークル)

C 「少林寺拳法の技の紹介と可能性の挑戦」
(松浦市少林寺拳法協会)

ゆめホール
ゆめホールのステージで
グランドピアノを
自由に弾いてみよう！

注意 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、入場時に検温・消毒及び個人情報を取得させていただきます。
※今後の感染拡大の状況によってイベントが変更または中止となることもございますので、予めご了承くださいませ。

主催：松浦市文化会館 / 後援：松浦市、松浦市教育委員会 / 協力：ルノン株式会社 / 企画制作：トルツリー (株式会社ケイミックス(ブリックビジネス))

お問合せ **松浦市文化会館** ☎0956-72-5758

受付時間：9:00～22:00 住所：松浦市志佐町浦免1110番地
休館日：毎週月曜日(祝日の場合はその翌日) アクセス：松浦鉄道「松浦」駅から徒歩1分

②9月21日（水） 松浦鉄道松浦駅手すり設置作業

2年次のまつナビ活動で提案した、松浦駅の手すり設置について、地元企業の株式会社稲沢鐵工様の協力をいただき、手すりの設置と引き渡し式を行った。



■令和4年10月20日 長崎新聞

4-4 成果と課題

(1) 成果

- ①論理性を重視して、個人の研究として論文をまとめることができた。
- ②模擬面接では、2年次に学んだプレゼンテーションのスキルを使い、堂々と発表することができた。また、就職・進学の実験での面接の際や、サイバーセキュリティボランティアで市内の小中学生の前で発表する際にも、さらにその力を発揮することができた。
- ③作成した論文を「論文集」としてまとめ、それを振り返ることにより、作成したことへの達成感を味わい、また、身につけたスキルに対して自己肯定感を高めることができた。
- ④実践活動を行うことにより、地元へ貢献する意識を育むことができた。

(2) 課題

- ①論文をまとめる際、深まりをもって取り組んだ者もいれば、作成に時間がかかり、作成に苦勞する者もいた。論文の模範例などを示し、作成しやすくする指導も有効ではないかと考えられる。
- ②実践活動に関しては、受験期と重なるため、長期に渡る活動ではなく、短期で終わるものに限られてしまった。

第3章 研究開発の内容②(研究開発単位Ⅱ)

1. はじめに

1-1 研究開発単位の設定

まつナビ・プロジェクト（MNP）の研究開発の目標を達成するために、以下の開発単位を設定した。

Ⅱ コンソーシアムをはじめとする、地域課題解決型学習を組織的に支援する体制についての研究開発

1-2 活動目標

令和4年度の活動目標は、以下のとおりである。

地域課題解決型学習を組織的に支援する体制を新たに立ち上げるとともに、具体的な研究支援を連携して進める

1-3 活動の概要

(1) 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

- ・「まつナビ・プロジェクト」を中心に据え、本校の教育活動全般において育成を図る資質・能力を「課題発見力・テーマ設定力」「論理的思考力」「コミュニケーション力（傾聴、対話、発信）」と設定した。
- ・カリキュラム等開発専門家である長崎大学准教授等や学年副主任やキャリア形成部といった、校内外のメンバーで構成されるプロジェクトチームの協力を得ながら検討し、地域との協働による探究的な学びをより充実させることを目的とした、PDCA サイクルにもとづく、カリキュラム・マネジメントを推進した。
- ・検討内容については、コンソーシアムに報告し、今後の研究活動等の進め方についての協議を行った。また、運営指導委員会による指導助言等を踏まえ、「プロジェクトチーム」が中心となって、修正案を検討し、以後の計画等に反映させることで、生徒の深い学びの実現を目指してきた。
- ・「まつナビ・プロジェクト」の各研究活動においては、カリキュラム開発等専門家、地域協働学習支援員を交えた振り返りを行い、研究活動の改善を図った。

(2) 学校全体の研究開発体制について

- ・1学期に本事業の探求の手法やマインドセットを身につけるために外部から講師を招き職員全体研修を行った。全教職員を生徒の研究活動のファシリテーターに位置付け、松浦市職員等や地域事業所と協働して生徒の支援に当たることとした。支援の内容や方法については、事前に活動内容について確認し、事後にはカリキュラム開発等専門家による助言を踏まえた振り返りを行った。
- ・フィールドワークをはじめとする地域との協働活動においては、プロジェクトチームがコンソーシアム等との連携を図りながら、教職員の活動を支援した。

(3)カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置づけについて

カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員は、月に2～4回来校し、次のような活動を行うことで学校内外における課題研究を継続的に支援した。

カリキュラム開発等専門家は、生徒課題研究への指導助言、構想・中間・校内の核発表会における運営や企画等の指導助言、また、フィールドワークやバスツアー等に向けた生徒の活動でファシリテーターをつとめた教職員への助言等を行った。地域協働学習実施支援員は、生徒及び教職員の活動をサポートするために、校内での打ち合わせを行った。

(4)学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

プロジェクトチーム、及びカリキュラム開発等専門家等を交えて、月に2～3回程度、校長が主宰する意見交換会を開催し、研究開発の進捗状況の確認等を行うとともに、研究活動全般について検証し、その改善を図った。

(5)カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

- ・コンソーシアムの構成メンバーが生徒の研究活動のアドバイザーとなり、本校教職員とともに生徒の支援に当たった。
- ・7月と2月には、松浦市長を座長とした、研究開発に対する支援及び事業推進体制の構築を図るために、コンソーシアム会議を行った。

(6)運営指導委員会等、取り組みに対する指導助言等に関する専門家からの支援について

運営指導委員会を7月、2月に開催し、事業計画の承認、生徒の課題研究発表を踏まえた令和4年度事業全体の総括と今年度の課題研究計画に関する指導助言がなされた。

2. コンソーシアム

2-1 構成

■コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者
松浦市	市長 友田 吉 泰
松浦市議会	議長 谷 口 一 星
松浦市教育委員会	教育長 黒 川 政 信
松浦市小中学校校長会	会長 川 原 祥
松浦市商工会議所	会 頭 稲 沢 文 員
松浦高校PTA	会長 川 下 高 広
松浦高校同窓会	会長 藤 田 英 敏
長崎大学 教育学部	教授 藤 本 登
長崎県立大学 地域創造学部	教授 吉 本 諭
エミネントスラックス株式会社	社長 前 田 周 二
松尾農園	代表 松 尾 秀 平
長崎県教育庁高校教育課	課 長 田 川 耕 太 郎
長崎県立松浦高等学校	校 長 舟 越 裕

2-2 活動実績

■活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和4年 4月 1日	コンソーシアムを組織
令和4年 7月 6日	第1回コンソーシアム会議 研究開発の概要及び年間計画について確認
第1回コンソーシアム 会議を踏まえて、ファ シリテーターとコンソ ーシアム事業所等によ る協働活動	コンソーシアム構成団体の一つである地元事業所と生徒の課題研究活動に関する協働（松浦鉄道松浦駅における手すりの設置等） コンソーシアム構成団体の一つである松浦商工会議所の青年部（YEG）との協働で、松浦未来こども博を企画。また、当日は「まつナビ・プロジェクト」によるいくつかの班が、実践活動を行った。（カフェ・イベント開催）
令和5年 2月17日	第2回コンソーシアム会議 本校における令和4年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（高等学校における研究開発）」の取組について検証、3年間の総括を行い、本事業終了後の次年度の研究開発に対する支援及び事業推進体制の構築を図る。

3. 運営指導委員会

3-1 構成

氏名	所属・職	備考
佐々木龍二	元長崎大学サテライトオフィス松浦・コーディネーター	
本田 道明	長崎県立大学・学長補佐	学識経験者
加藤 久雄	鎮西学院大学・教授	学識経験者
前田 幸輔	西海みずき信用組合 地域振興室	有識者
川浪 剛人	自営業（前まつうら創生推進室長）	地域住民代表
伊東 啓行	県企画部政策企画課 企画監	関係行政機関職員

3-2 活動実績

■活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和4年 7月28日	第1回運営指導委員会 ・令和4年度「まつナビ・プロジェクト」の事業計画を承認
令和5年 2月17日	第2回運営指導委員会 ・令和4年度の取り組みについて報告、3年間の総括 ・本事業終了後の次年度からの活動についての助言

4. カリキュラム開発等専門家

長崎大学教育学部准教授 井手 弘人 氏

■実施日程・内容

月	日	主な助言等
4	13	第1回プロジェクトチーム会議（以下28回の会議参加） ・年間計画における具体的な助言
	27	生徒の課題研究活動
5	11	・課題研究構想発表会準備計画について助言
	18	
	25	2年生の課題研究構想発表会 ・発表会参観
6	1	フィールドワーク準備
	22	・フィールドワークの手法等について助言
	29	・フィールドワークの情報収集について助言
7	6	第1回コンソーシアム会議 ・コンソーシアムとの連携の在り方について確認
	13	教職員とフィールドワークについて打合せ
	20	・ファシリテーターとしての支援について助言
	21	1年生バスツアー 松浦市巡回
9	7	2学期の活動の中で、外部との連携について協議
	14	1年生の学習報告会 報告会参観
	21	2年生の中間発表会準備 ・生徒の活動班へ発表の手法等の助言
	28	2年生の中間発表会 ・発表会参観
10	5	校内発表準備 ・2回目のフィールドワークについて助言
	12	管理職および担当者との協議 ・今後の外部との連携について打合せ
	19	・学習報告会・中間発表の検証・助言
	26	淀姫神社 流鏝馬 参観
11	2	校内発表準備 ・校内発表に向けて地域学習実施支援員との打合せ
	9	松浦市によるブース形式説明会 ・説明会参観
	16	生徒の課題研究活動の助言
	30	・教職員ファシリテーターの支援の方法等について助言
12	14	校内発表会 ・発表を行った生徒活動班へ助言
1	11	1年生の個人テーマ発表会 ・発表会参観
	18	課題研究発表会 ・発表を行った生徒活動班へ助言
2	15	生徒の課題研究活動の助言 ・これからテーマ設定を行う1年生への助言
	22	
3	15	1年生の課題研究構想発表会 ・発表会参観
	22	振り返り（教員・生徒）

5. 地域協働学習実施支援員

日本教育公務員弘済会長崎支部 中上 徹 氏

■実施日程・内容

月	日	主なサポート
4	13	第1回プロジェクトチーム会議（以下28回の会議参加） ・年間計画の日程調整等
	27	管理職および担当者との協議 ・中学校までの学習振り返りのサポート
5	11	生徒の課題研究構想発表の支援
	18	・松浦市や事業所等との協働活動の調整
	25	2年生の課題研究構想発表会 ・発表会参観
6	1	生徒の机上活動
	22	・7月下旬のフィールドワークに関する希望等について生徒からの聞き取り、準備等
	29	外部講師による講演会準備
7	6	第1回コンソーシアム会議 ・コンソーシアムとの連携の在り方について確認
	13	教職員とフィールドワークについて打合せ
	20	
	21	フィールドワーク 松浦市巡回
9	7	2学期の活動の中で、外部との連携について協議
	14	1年生の学習報告会 ・報告会参観
	21	管理職および担当者との協議 ・今後の外部との連携について打合せ
	28	2年生の中間発表会 ・発表会参観
10	5	校内発表準備 ・2回目のフィールドワークの日程調整
	12	管理職および担当者との協議 ・今後の外部との連携について打合せ
	19	
	26	淀姫神社 流鏝馬 参観
11	2	校内発表準備 ・校内発表に向けたカリキュラム等開発専門家との打合せ
	9	松浦市によるブース形式説明会 ・説明会参観
	16	生徒の課題研究活動の支援 ・地域との協働活動の調整・助言
	30	
12	14	校内発表会 ・発表会参観
1	11	1年生の個人テーマ発表会 ・発表会参観
	18	課題研究発表会 ・課題研究発表会参観
2	15	生徒の課題研究活動の支援 ・地域との協働活動の調整・助言
	22	
3	15	1年生の課題研究構想発表会 ・発表会参観
	22	振り返り（教員・生徒）

第4章 まつナビ・プロジェクトの検証、次年度に向けて

1. 今年度の目標設定についての検証

(1) 本構想において実現する成果目標の設定と達成状況

1. 本構想において実現する成果目標の設定 (アウトカム)		単位 (%)		
		R2	R3	R4
a	卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を図るものとして、管理機関において設定した成果目標	75	80	85
	地域の課題を考え、その解決に向けて意欲的に取り組み、将来は松浦市に貢献したいと思う生徒の割合	37.4	26.8	64.0
	目標設定の考え方：8割以上の生徒が意欲的に取り組むものとして算出			
b	高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標	70	75	80
	高校卒業後に就職する生徒のうち、地元へ就職する生徒の割合	81.8	77.8	75.6
	目標設定の考え方：卒業生の就職先を基に算出			
c	その他本構想における取組の達成目標	50	60	70
	高校卒業後に進学する生徒のうち、大学等卒業後にUターンして就職したいと考える生徒の割合	40.0	19.4	45.7
	目標設定の考え方：卒業生の進路希望調査を基に算出			
d	その他本構想における取組の達成目標	30	35	40
	大学に進学する生徒のうち、地域活性化や教員養成系に関わる学部・学科へ進学した生徒の割合	44.8	64.2	71.4
	目標設定の考え方：卒業生の進路希望調査を基に算出			

a 目標値には届いていないが（今年度目標：85%）一昨年度から約26%向上している。3年間で生徒の意識は高まり、これまでの課題研究活動において、一定の成果が出たと考察する。

b 目標値には達していないが（今年度目標：80%）、地域を愛し大切にするという研究開発Iの意識の高さは保っている

c 昨年度と比べUターンして就職したいと考えている者が約25%向上している。「まつナビ」の活動を通して地元のことを調べ考察した結果がこの結果につながったと考える。

d について、年々増加傾向であったことから、地域活性化に向けた課題研究と自らのキャリア・プランニングとつながりを一層強める取組ができた。

(2) 地域人材を育成する高校としての活動指標

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標 (アウトプット)		単位 (回・%)		
		R2	R3	R4
a	地域課題研究又は発展的な実践の実施譲許を測るものとして、管理機関において設定した成果目標 (単位: 回)	35	35	35
	学校外での活動回数 (半数×回数) (単位: 回)	26	30	44
	目標設定の考え方: 1年: 2回、2年: 15班×2回、3年: 3回を目標として産出			
b	普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標 (単位: 回)	3	3	3
	先進校としての研究発表回数 (単位: 回)	4	3	4
	目標設定の考え方: 成果普及のために、研修会等で年間3回以上確保する			
c	その他本構想における取組の具体的指標 (単位: %)	90	95	100
	2年次の「まつナビ」の中で、フィールドワークにおいて地元の方にヒアリング・インタビューする生徒の割合 (単位: %)	64.4	70.2	89.2
	目標設定の考え方: 原則、全員1回は実施するよう指導する			
d	その他本構想における取組の具体的指標 (単位: %)	60	70	80
	高校3年間で地域への貢献活動・まちゼミ・地域でのボランティア活動に参加する生徒の割合 (単位: %)	98.8	98.3	95.2
	目標設定の考え方: 8割以上の生徒が意欲的に取り組むものとして算出			

- a 目標値35回に対し今年度は44回であった。少しずつコロナによる制限が緩和され、活動できる場も増加したことが、活動回数を確保することができた要因であった。
- b 構想研究発表、中間発表、校内発表、課題研究発表の計4回実施できた。
- c フィールドワークに参加した生徒の89.2%がヒアリング・インタビューを実践した。
- d 地域におけるボランティア活動参加率は95.2%と目標値を上回り、生徒の積極的な取り組みが把握できた。

(3) 地域人材を育成する地域としての活動指標

1. 本構想において実現する成果目標の設定 (アウトカム)		単位 (人・回)		
		R2	R3	R4
a	地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標 (単位: 人)	140	140	140
	「まつナビ・プロジェクト」に関わった外部人材の人数 (単位: 人)	175	184	341
	目標設定の考え方: 1年: 20人、2年: 100人、3年: 20人を目標として算出			
b	その他本構想における取組の達成目標 (単位: 回)	3	3	3
	コンソーシアムの活動回数 (単位: 回)	4	2	2
	目標設定の考え方: 学期に1回ずつ行う			

- a 昨年度より157人増となり、外部の方々との協働が増え、充実した活動となった。フィールドワークにおける協力してもらいなど、今年度は341人が『まつナビ・プロジェクト』に関わった。

b 今年度は年度当初よりコロナ禍ということもあり、感染拡大防止の観点より、7月、2月の2回実施予定とした。また、生徒とコンソーシアム構成員（地元事業所）との協働で、松浦鉄道松浦駅のホームのスロープ設置できるなど、提案にとどまらない実践まで行う機会ができた。

2. 次年度に向けて（課題改善の方向性）

(1) 今年度及び3年間の成果と課題

①「開発単位Ⅰ」についての成果

- 教科横断型と地域連携における授業実践による課題発見力・テーマ設定力と地域を愛し大切にす
る姿勢の育成
- フィールドワークや課題研究発表、論文作成における論理的思考力、コミュニケーション力の育
成
- ICTを利活用した授業実施における他地域にも汎用できる課題研究活動の実践

②「開発単位Ⅱ」についての成果

- コンソーシアム構成員との協働による実践活動の充実

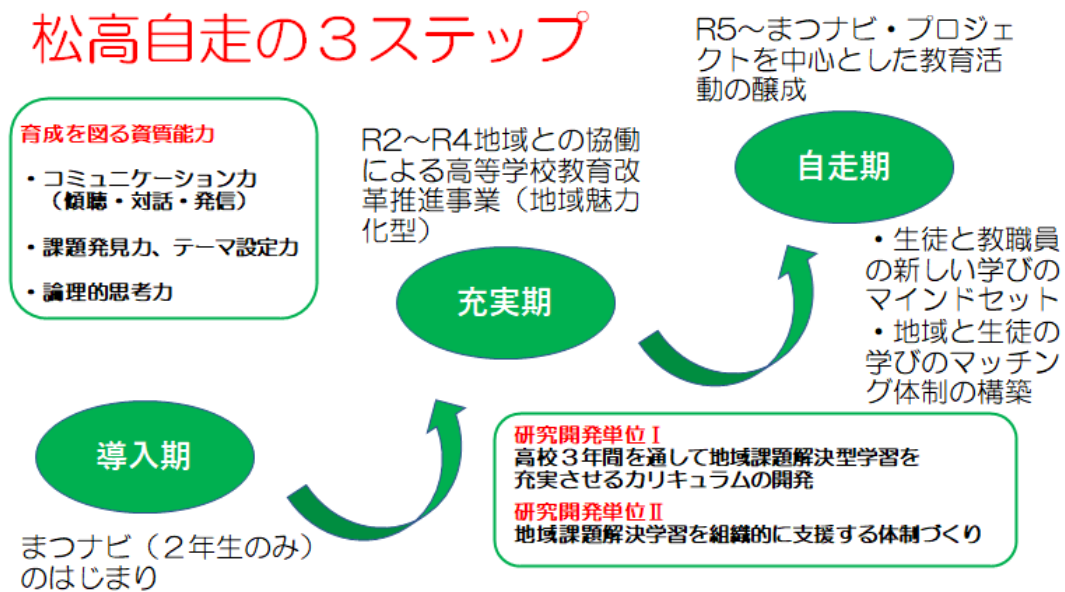
③今年度及び3年間の課題

- 過年度研究に頼らない、新しく斬新な課題研究テーマ設定
- 生徒一人一人のキャリア形成につながる課題研究テーマ設定
- 提言だけにとどまらない実践活動
- 学校（生徒）と地域との協働活動におけるマッチング体制の構築

④総括

平成29年度からまつナビ（2年生のみ）がはじまり（導入期）、令和2年度から4年度までは、文科省から「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定を受け（充実期）、本校の教育活動の中心として地域との協働を充実させ、さらにコンソーシアム等の組織を充実させてきた。

今後は、これまでの研究をベースに、コンソーシアムを中心として地域、大学、企業等との連携を深め、生徒の学びの充実及び育成したい資質・能力の定着を図っていききたい（自走期）。



参考資料

■生徒アンケート（令和2年度、令和3年度、令和4年度とも1月に実施）

【回答番号】4：とてもそう思う。3：まあそう思う。2：あまりそうは思わない。1：全くそうは思わない。

<松浦に関する知識>

- ア 松浦の歴史や文化について、知っている。
- イ 松浦の自然について、知っている。
- ウ 松浦の産業やその特色などについて、知っている。
- エ 松浦が抱えている問題点や課題について、知っている。
- オ 地域の課題解決の方法を、考えたことがある。

<ふるさとや松浦に対する意識>

- カ 自分のふるさとや松浦のことが、好きである。
- キ 地域の課題を解決したり、地域を活性化したりする活動に、興味を持っている。
- ク 自分のふるさとや松浦を訪れる人やU I ターンの移住者から多くのことを学んでみたい。
- ケ 地域課題の成果を考え、その解決に向けて意欲的に取り組み、将来は松浦市に貢献したい。
(そう思ったことがある)

<進学希望先別の意識> 質問コ～シ及びのうち当てはまるものを答えてください。第1希望のみ。

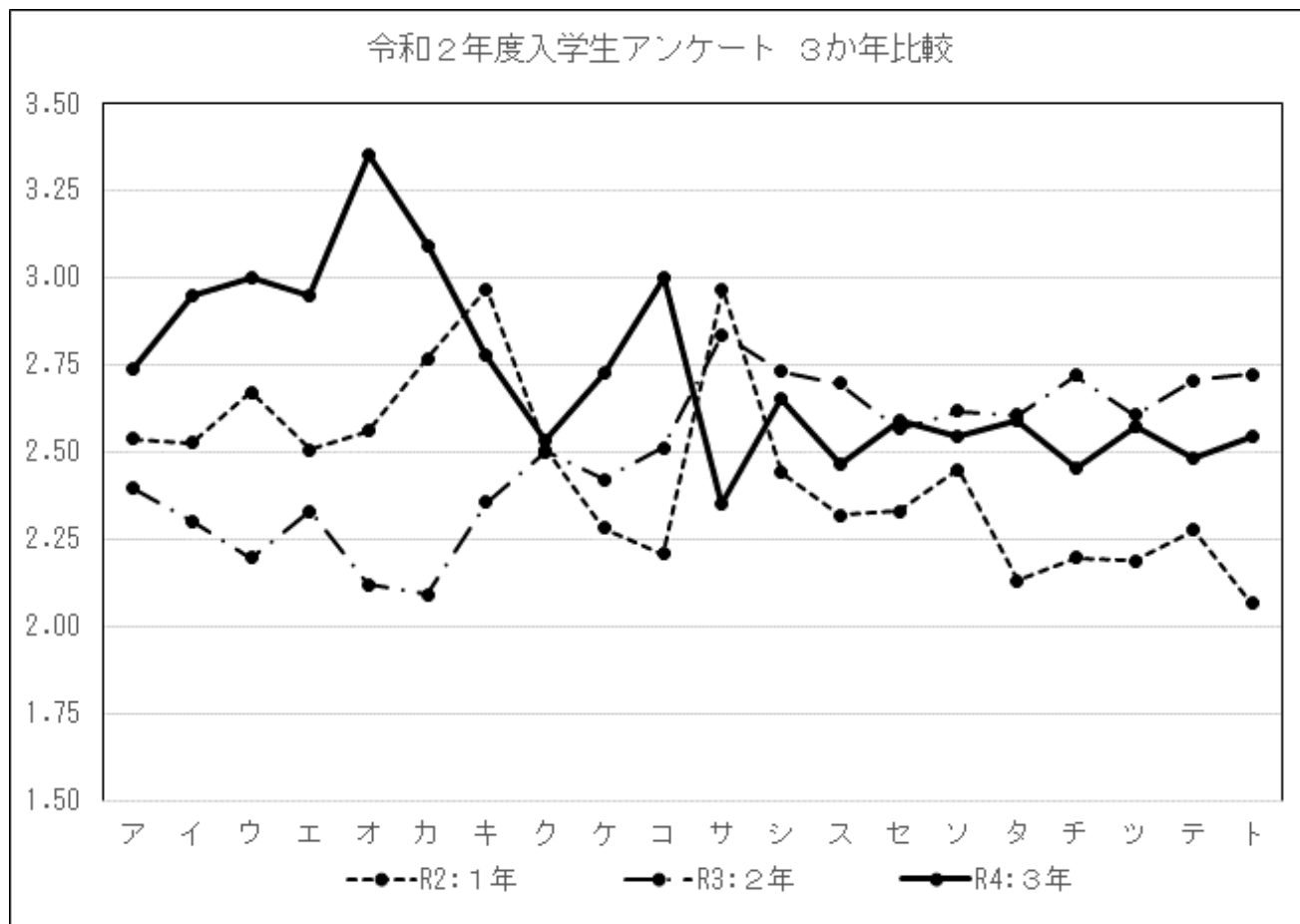
- コ 高校卒業後に就職する生徒のうち、地元就職したい。(長崎県内就職も考えている)
- サ 高校卒業後に進学する生徒のうち、大学等卒業後にUターンして就職したい。
(Uターン先は松浦市ではなく「長崎県内」です。進学希望者は大学だけでなく、短大、専門学校等も含みます。)
- シ 大学等へ進学する生徒のうち、地域活性化や教員養成系に関わる学部・学科へ進学したい。
(大学等とは四年制大学及び短大です。学部・学科は地域系、経済系や社会学系、国際系及び教員養成、文学・語学系、保育等です)

<自分の学力の分析>

- ス 自分は、地域でのヒアリング・インタビュー・アンケートを実施する力がある。
- セ 自分は、フィールドワークの結果を分析する力がある。
- ソ 自分は、地域の課題を改善する方法を考える力がある。
- タ 自分は、フィールドワークの結果や課題改善の方法をまとめる力がある。
- チ 自分は、フィールドワークの結果や課題改善の方法をプレゼンテーションする力がある。
- ツ いろいろな人の意見に耳を傾け、対話をし、発信していくコミュニケーション力がある。
- テ ふるさとに関する課題を発見し、研究テーマを設定する力がある。
- ト 道理や筋道に従いながら考え結論を導き、結論について分かりやすく説明する力がある。

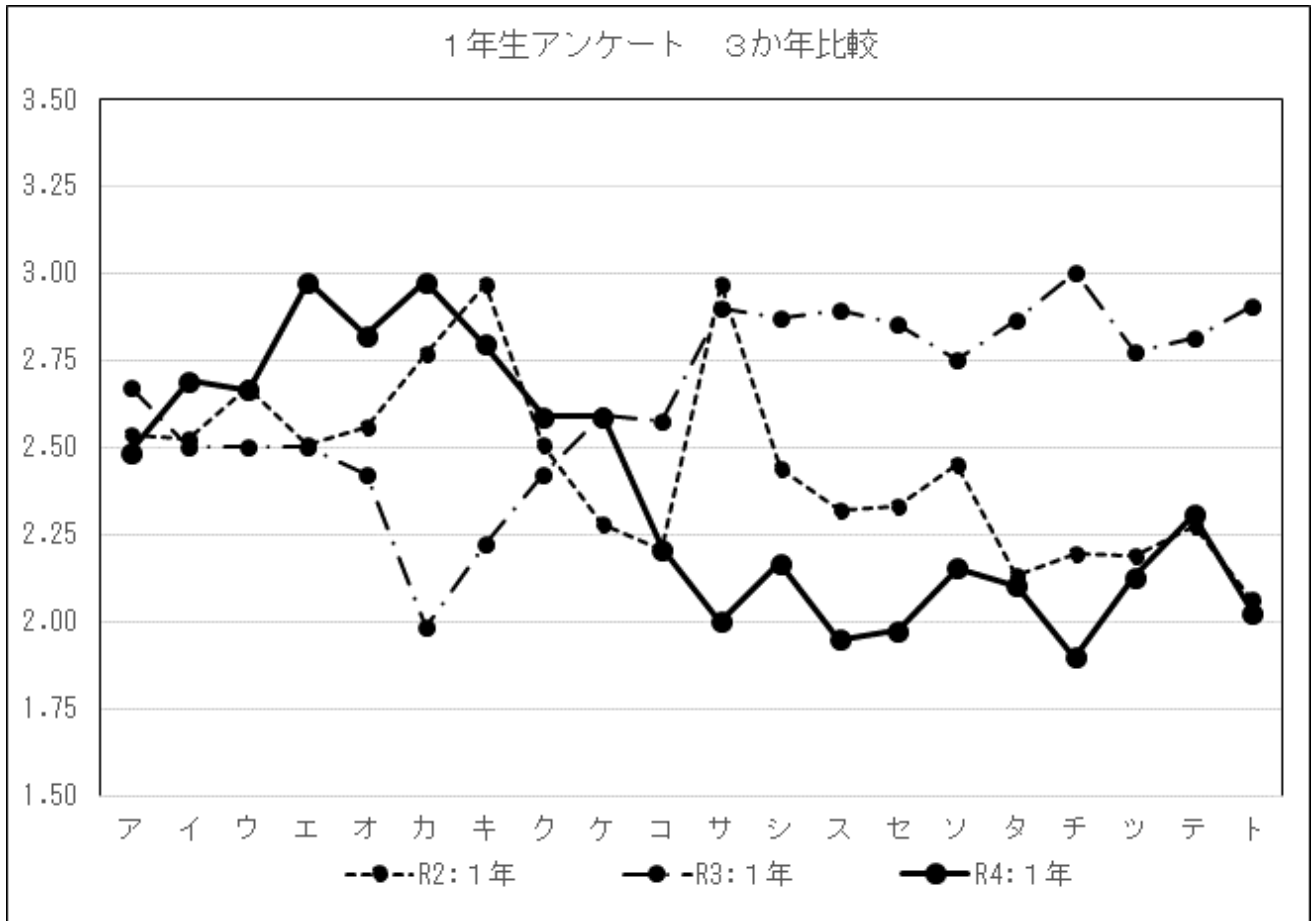
■生徒アンケート分析

【令和2年度入学生（3年間の推移）】



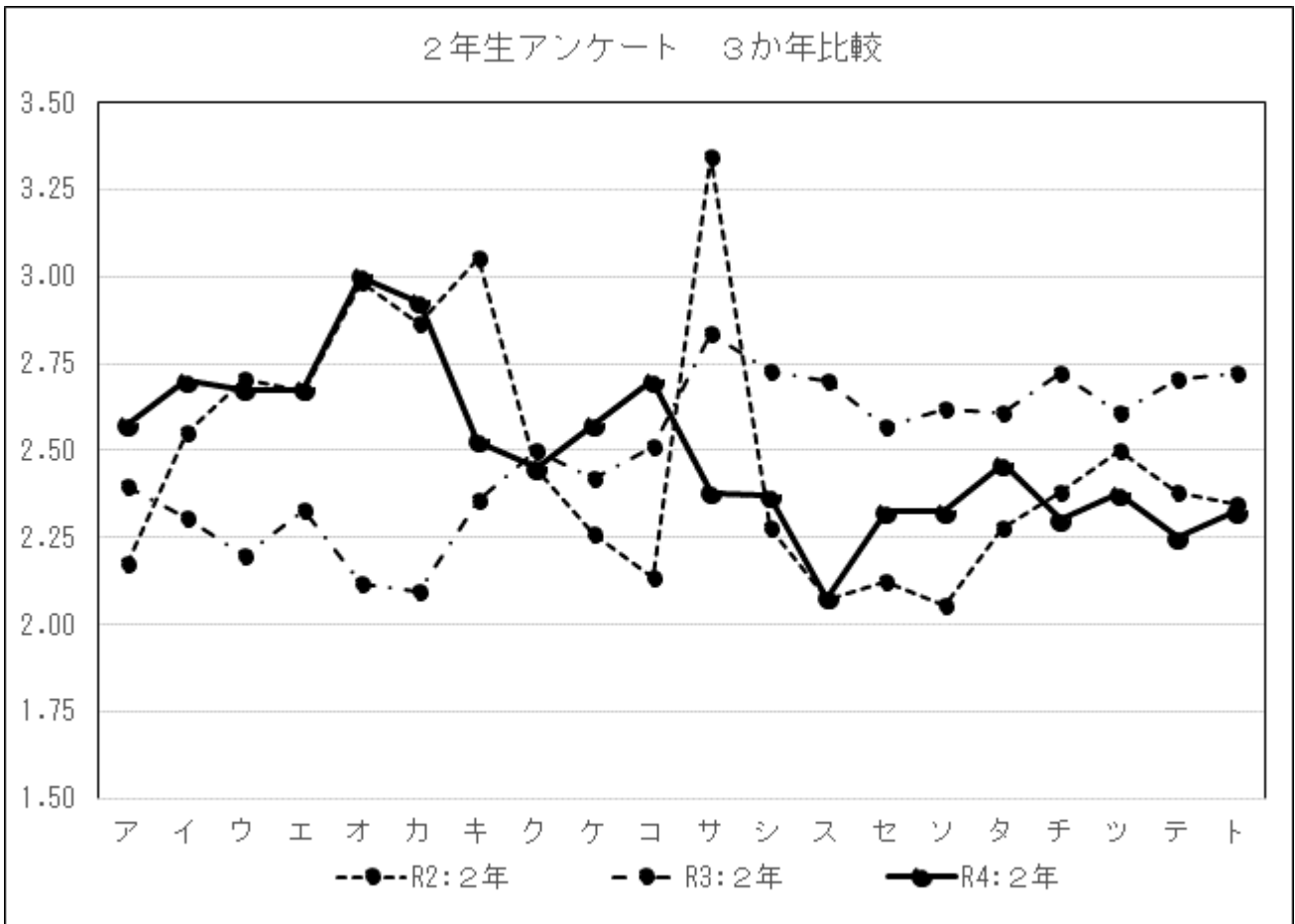
- ・ 質問オ「地域の課題解決の方法を、考えたことがある」、質問カ「自分のふるさとや松浦のことが、好きである。」といった回答は、R4：3年は、R3：2年、R2：1年より高くなっている。
- ・ 質問コ～トの＜進学希望先別の意識＞や＜自分の学力の分析＞といった内容は、R4：3年は、R3：2年と比較すると、全体的に低くなっている。

【1年生】



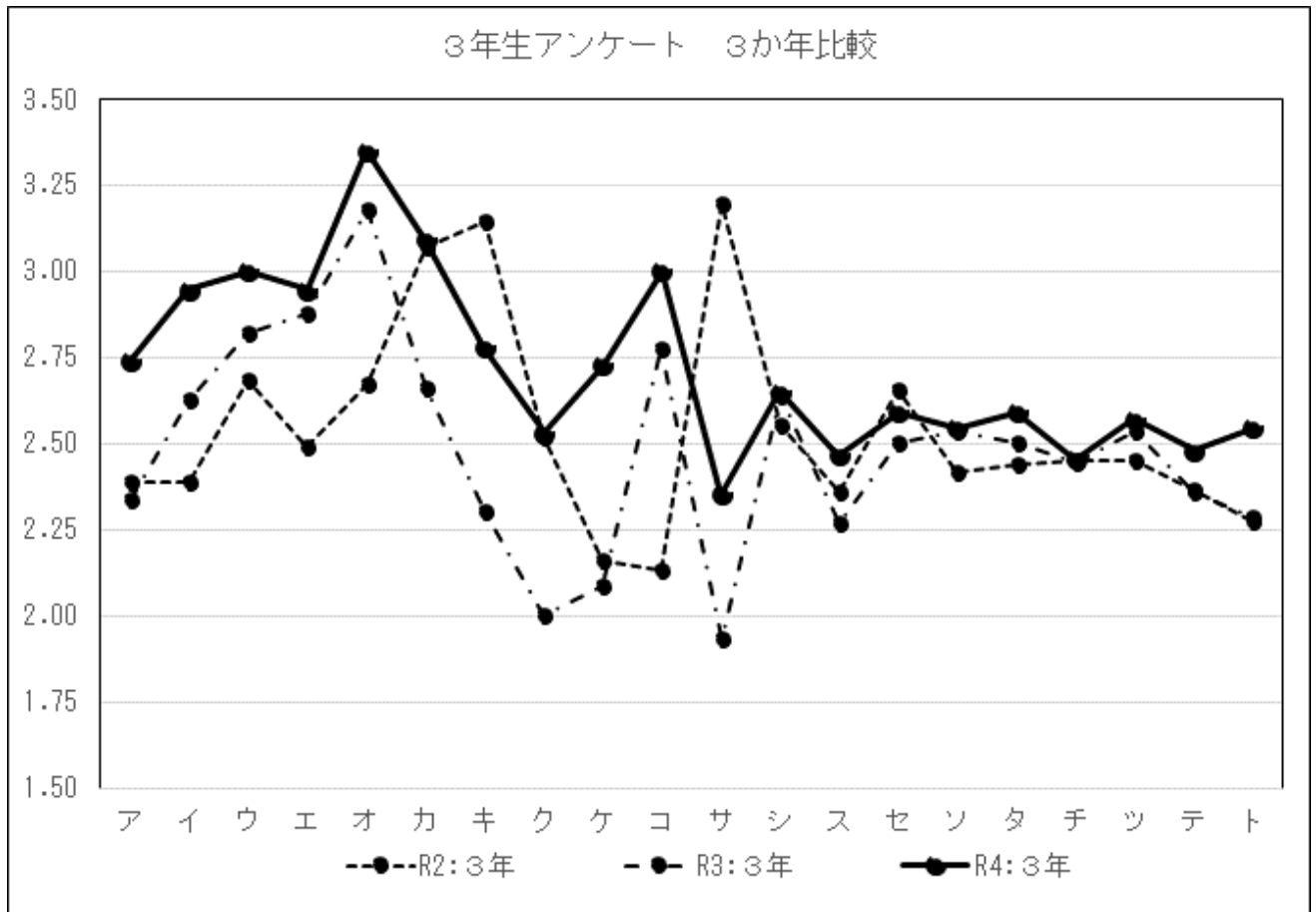
- ・前ページ【令和2年度入学生（3年間の推移）】と同じような傾向が見られ、質問コ～トの＜進学希望先別の意識＞や＜自分の学力の分析＞といった内容が、R4は、R2、R3よりも低くなっている。
- ・質問エ「松浦が抱えている問題点や課題について、知っている。」は、R2、R3より高い。令和4年度は、インプット（研修会や講演会）を多く入れた成果が出ているものと思われる。

【2年生】



- ・質問オ「地域の課題解決の方法を、考えたことがある。」はR2と同じく、3.0を超えた高い数値となっている。
- ・R3：2年（R4：3年）は、質問コ～トの数値が3年間で最も高くなっており、この年度の取組等の「振り返り」と「検証」を行い、次年度以降の活動にいかしていく。

【3年生】



- ・ R3、R4では、事前調査と調査に変化がないことが特徴である。
- ・ R4とR3を比較すると、質問コ～トの＜進学希望先別の意識＞や＜自分の学力の分析＞については、R4のほうが高い数値となっている。
- ・ R4の3年生は、質問カ～ケである＜ふるさとや松浦に対する意識＞がR3：2年（前頁）よりも高くなっている。

長崎県教育委員会【長崎県立松浦高等学校】

令和4年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

松浦高校『まっナビ・プロジェクト』～3年間の地域課題解決型学習と自らのキャリアデザインの構築～

- ・地域を担う人材不足 → 県立高校と地元自治体等との協働（「地域活性化人材」育成） → **継続性のある取組の充実が共通課題**
 - ・**松浦高校の研究開発**（目的：地域に貢献する意欲と課題解決能力の育成） → 成果等を伝達 → 県立高校での取組の一層の充実
- 研究開発単位：Ⅰ **高校3年間を通じて地域課題研究キャリアキュラムの開発** Ⅱ **生徒の課題研究を組織的に支援する体制の構築**



令和4年度の目標 取組状況

研究開発単位Ⅰ

生徒個々のキャリアプランに基づいて、高校生が「地域を愛し大切にしたい」と課題解決能力の育成を図る

- 研究開発単位Ⅱ**
- 前年度の検証等を踏まえ、体制の充実と生徒の課題研究活動等への支援の検証・改善
- 1 学年（まっナビ）
 - ・基礎的知識・技能等の習得、次年度課題研究テーマの設定
 - 2 学年（まっナビ）
 - ・校内外で課題研究の計画的な実施、課題の解決策等を提言
 - 3 学年（ポストまっナビ）
 - ・個人研究としてのまとめ、地元小中学生に研究成果を報告
 - 全学年
 - ・育成を目指す資質・能力を踏まえた教科横断型の学習活動

成果 (○) と課題 (●)

- 一人一人の生徒の「資質・能力」を育み、地域の未来を担う人材の育成を図るための「3年間計画」を策定し、計画に基づいた実践についての検証・改善
- 学校（生徒）と地域との協働活動におけるマッチング体制の構築
- 生徒一人一人のキャリア形成につながる課題研究テーマ設定

- コンソーシアム構成員との協働による実践活動の充実
- コンソーシアムを中心とした地域、大学、企業等との連携を深め、生徒の学びの充実及び育成したい資質・能力の定着
- 生徒に身に付けさせたい力をルーブリックを用いた評価に反映



まつナビ・プロジェクト

検索 CLICK!

長崎県立松浦高等学校

〒859-4501 松浦市志佐町浦免738-1



☎0956-72-0141 (事務室)

☎0956-72-0142 (職員室)

<https://www.news.ed.jp/matsuura-h/>

